

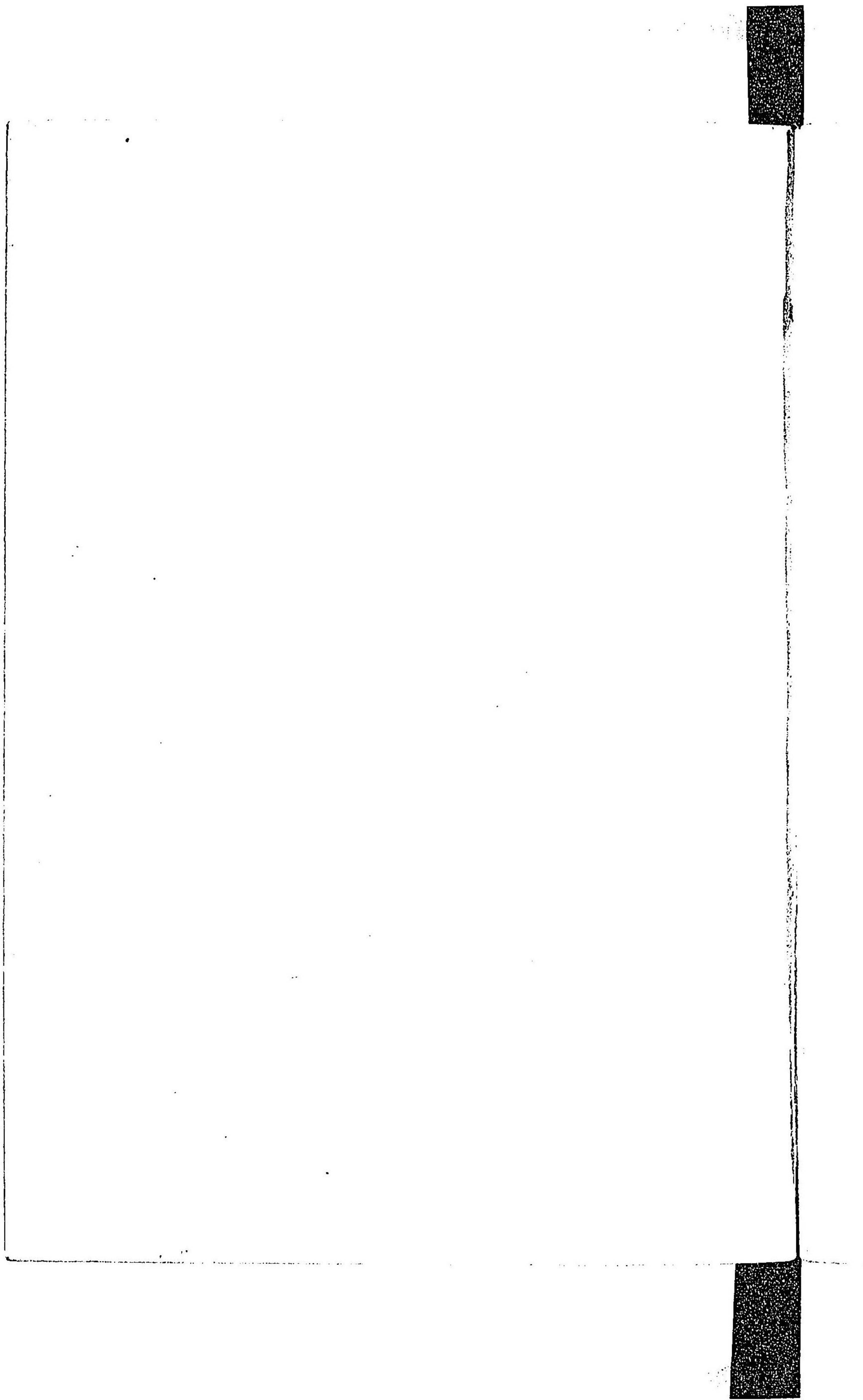
明治三十
九年印刷

送假
漢字
用名
例法

陸軍幼年學校用

全





陸軍中央幼年學校編纂

漢字用例

全

陸軍幼年學校用

814.5 R520

送假名法

送假名法

明治三十四年六月

陸軍中央幼年學校國漢文科編纂

漢字用例

明治三十四年六月

陸軍教授佐川藤田
故陸軍教授佐川藤田
主編纂



336808

送假名法

○動詞及ビ助辭

一、動詞ニハ語尾ノ變化スル所ヨリ送假名ヲ附ス。

行^ユか 行^ユき 行^ユく 行^ユけ

恨^ヰみ 恨^ヰむ 恨^ヰむる 恨^ヰむれ

得^ヰ 得^ヰ 得^ヰる 得^ヰれ

有^アら 有^アり 有^アる 有^アれ

〔變例〕 表^{アラ}はす 遣^{ツカ}はす 妻^{メタ}はす 賑^{ニギ}はす 非^{アラ}ず

二、自動動詞ヨリ轉ゼル他動動詞、他動動詞ヨリ轉ゼ

ル自動動詞、他ノ動詞ヨリ轉ゼル敬稱動詞及ビ延言ノ動詞ニハ本動詞ノ語尾ノ變化スル所ヨリ送假名ヲ附ス。

甲 動ウツく 動ウツかす

亡ホロぶ 亡ホロぼす

乙 産ウツむ 産ウツまる

埋ウツむ 埋ウツまる

丙 立タツつ 立タツたす

知シる 知シらす

丁 語カマる 語カマらふ

申マテす 申マテさく

〔變例〕「曰イはく」ハ送假名ノ「は」ヲ省クモ可ナリ。

三、名詞又ハ形容詞ヨリ轉ゼル動詞ニハ其ノ轉ゼル所ヨリ送假名ヲ附ス。

春ハルめく 名ナづく 黄キばむ 遠トホざかる

四、熟語動詞ニハ各動詞ニ送假名ヲ附ス。

遊アソび戯タハムる 洗アラひ清キヨむ 勝カち誇ホコる 殘コノし置オく

〔變例〕左ノ如キ慣用ノ熟語動詞ニハ唯下ノ詞ノミ送假名ヲ附スルモ可ナリ。

受ウケ取る 申マテ上シアぐ 届トキ出ケイづ 差サシ遣ツカはす

五、助辭ハ總テ假名ヲ用フ。

べし なり けり かな かも かや

〔變例〕「如し」ハ漢字ヲ用フルモ妨ナシ。

○形容詞

一、形容詞ニハ左ノ例ニ依リテ送假名ヲ附ス。

- 甲 善ヨクき 惡ワロクき 全マツクき 尊タフトき
- 乙 樂タンしき 惡アしき 正タマしき 可チカ笑カしき
- 丙 安ヤスけき 靜シヅけき 遙ハルけき 長ナド閑ドけき
- 丁 靜シヅかなる 遙ハルかなる 幽カスかなる 嚴オゴソかなる
- 戊 平タビらかなる 安ヤスらかなる 明アキらかなる 清キヨらかなる

己 穩オダやかなる 健スコやかなる 濃コマやかなる 爽サワやかなる

二、動詞ヨリ轉ゼル形容詞ニハ動詞ノ例ニ依リテ送假名ヲ附ス。

願ネガはしき 頼タノもしき 痛イタましき 歎ナガかはしき

三、熟語形容詞ニハ左ノ例ニ依リテ送假名ヲ附ス。

- 甲 薄ウスク暗クラき 輕カロク々々しき 手テ輕ガロき 心ココロ易ヤスき
- 乙 見ミ善ヨクき 知シり難ガタき 考カンへ易ヤスき 聞キき苦クルしき

○名詞

一、名詞ニハ送假名ヲ附セズ。

- 上カミ 下シモ 時トキ 心ココロ 學ガク校カウ 大ヤマト和タマシヒ魂

二、動詞ヨリ轉セル名詞ニモ送假名ヲ附セズ。

恥ハヂ 話ハナシ 教ナシヘ 答コタヘ 妨サマタ 流タガレ 祭マツリ 戰タカヒ

〔變例〕 他ノ詞ト紛レ易キトキハ動詞ノ例ニ依リテ送假名ヲ附ス。

印シムし(印イン) 營イトナみ(營エイ) 悔ウレい 悔ウレみ 定サズめ 定サズまり

始ハジめ 始ハジまり 押オシ入り 押オシ入れ

三、形容詞ヨリ轉セル名詞ニハ形容詞ノ例ニ依リテ

送假名ヲ附ス。

高タカさ 廣ヒロさ 重オモみ 厚アツみ 樂タシしさ 悲カナしさ 靜シヅけさ

長閑ナギけさ

○代名詞

一、左ノ如キ代名詞ニハ送假名ヲ附セズ。

余ナニ 汝ナニ 私ワタクシ 貴方アナタ 何ナニ 某ソレガシ

二、左ノ代名詞ニハ「れ」ノ送假名ヲ附ス。但シ附セザルモ妨ナシ。

我ワれ 己オンれ 彼カれ 是コれ 此コれ 之コレれ 其ソノれ 誰タレれ 孰イデれ

三、左ノ代名詞ニハ「が」又ハ「の」ノ送假名ヲ附ス。但シ附セザルモ妨ナシ。

我ワが 彼カの 是コの 此コの 其ソノの (「が」又ハ「の」ガ主格ニ立ツ場合ニハ省クコトヲ得ズ)

○副詞及ビ接續詞

一、副詞及ビ接續詞ニハ語尾ノ一字ヲ送ル。

先づ 若し 夫れ 且つ 復た 尙ほ 猶ほ 將た 爲め
 斯く 嘗て 將に 終に 未だ 寧ろ 縦ひ 蓋し 但し
 昔し 當に 争で 必ず 古へ 自ら 殆ど 頗る 忽ち
 或は 尤も 雖も 甚だ 則ち 苟も 豫め 如何に

〔變例第一〕 扱 今 又 亦 皆 豈 稍 唯 只

〔變例第二〕 「但し」ハ送假名ヲ附セザルモ妨ナシ。

〔變例第三〕 若くは 況んや 而して 直ちに 故らに
 徒らに 須らく 動もすれば

二、動詞、形容詞、名詞ヨリ轉ゼル副詞及ビ接續詞ニ

ハ各、其ノ例ニ依リテ送假名ヲ附ス。

甲 始めて 至りて 然らば 例へば 及び

〔變例〕 左ノ如ク送假名ヲ省減スルモ可ナリ。

總て 兼て 於て 就て 依て 以て 隨て 及
 乙 能く 宜しく 靜かに 明らかに 濃やかに
 丙 誠に 竝に 確實に 素より

三、漢字ヨリ成レル熟字ノ副詞及ビ接續詞ニハ送假名ヲ附セズ。

大凡 就中 例令 加之
オホヨソ ナカニツク タトヒ シカンミナラス

四、疊語ノ副詞及ビ接續詞ハ一字ノモノハ「々」、二字以上ノモノハ「々々」ヲ用フ。

世々ヨ、 尙々ナホク 時々トキトキ 往々ワウウ 行くユ 返すカヘ

〔變例〕 各オノオノ 愈イヨ 益マス 屢シバシバ 旁カタ 會タマ 抑ソモ 熟ツラ

備考 以上ノ法則ハ普通文ニ適用セラル、モノナリ。書牘文ニアリテハ慣例ニ依リ送假名ヲ省減スルコトアルベシ。

送假名法 終

漢字用例

漢字用例

例言

一 本書ハ重ニ同訓異義ノ漢字ニツキテ其用法ノ一斑ヲ示スモノナリ。然レドモ訓ヲ以テ讀マズ、音ヲ以テ讀ムモノ、如キモ、其意義ノ類似スルモノハ之ヲ收メタリ。例ヘバ「ころす」ノ中ニ「誅す」チニツ「戮す」リツ「弒す」シイヲ加フルガ如シ。

一 本書中ノ漢字ハ重ニ本義ニ依リテ説明ス。其例

ハ普通ニ使用スル熟語及び名句ヲ引用セリ。然レドモ轉用セル語義モ之ヲ添加セルモノ多シ。例ヘバ「洗ふ」ノ下ニ「洗心」ヲ加フルガ如シ。

一 本書ハ搜索ニ便ナラシメンガ爲メ、凡テ五十音ノ順序ニ依リテ排列セリ。

一 本書ヲ編纂スルニ就キ參考セシ書籍ノ主ナルモノ左ノ如シ。

操觚字訣 伊藤東涯著

譯文筌蹄 荻生徂徠著

助語審象 三宅橘園著

助字鵠 河北景楨著

譯文須知 松本愚山著

文語解 宇野明霞著

虛字解 皆川淇園著

助辭譯通 岡白駒著

康熙字典

字彙

漢字用例目次

あノ部

あゝ 嗚呼、噫	………	一
あがなふ 購、贖	………	一
あぐ(あがる) 揚、舉、昂	………	二
あたくし(かし) (あたくしむ)	………	二
暖、溫、煖	………	二
あたる(あつ) 當、中、方	………	三
あつむ(あつまる) 集、纂	………	三
輯、聚、萃	………	三
あと 跡、迹、蹟、痕、軌	………	四
あはれむ 憐、憫	………	五
あふ(あはす) 合、遇、會、逢、遭	………	五
あへて 敢、肯	………	六
あまぬし 普、周、遍	………	六
あやうし(あやぶむ) 危	………	六

殆……………七	いこふ(やすむ)息憩休二
あやまり(あやまちあや まる) 誤謬過……………七	いさむ 諫諷……………二
あらたむ(あらたまる)	いだく 抱懷擁……………二
改悛革更……………八	いたむ 悼痛慘疼傷……………三
あらはる(あらはす) 顯……………八	いたる 至到詣……………三
著彰見現表……………八	いつはり(いつはる) 偽
あらふ 洗濯……………九	詐詭……………四
あり 有在……………一〇	いぬ 寢寐……………四
いノ部	いはふ 祝賀……………五
いかる 怒悲愠忿……………一〇	いふ 曰云言謂……………五
	いましむ(いましめ) 戒

誠警箴……………一六	うつす(うつる) 移遷徙
いやし(いやしむ) 卑賤	寫摹描……………二
鄙陋……………一七	うばふ 奪篡褫……………三
うノ部	うらむ 怨恨憾……………三
う 得獲……………一六	うるはし 美麗妍艷……………三
うかがふ 伺窺……………一六	うるほふ(うるほひ) 濕
うく 受承稟饗享……………一六	潤霑……………三
うごく(うごかず) 動搖	うれふ(うれひ) 憂患愁
蕩……………一六	えノ部
うしなふ(うす) 失喪亡……………一六	えらぶ 選撰擇……………五
うつ 擊打拍撲討伐……………一六	おノ部

おくる 送、贈……………三	おほむぬ 概、率……………三〇
おこたる 怠、惰、懈……………三	おもふ 思、想、懷、惟、顧……………三
おこる(おこす) 興、起……………三	おもむく 赴、趨、趣……………三
おごる 奢、驕、傲……………七	かノ部
おす 押、推、壓……………七	かりばし(かぐばし) 香、馨、芳……………三
おそる(おそれ) 恐、畏、懼……………六	かしぐ 掲、褰……………三
おつ(おとす) 落、隕、墮、墜……………六	かゞやく(かゞやかす)
おどろく(おどろかす)	かゞやく(かゞやかす) 耀、曜、煥、煌、灼……………三
驚、愕、駭……………元	かく(かゝる) 掛、懸、係……………三
おふ 追、逐……………元	かくる(かくす) 隱、竄、匿……………三
おほふ 覆、蓋、蔽、掩……………三	

かたし(かたむ) 堅、固、硬……………三	きノ部
かつ 勝、克、捷……………三	さく(さこゆ) 聽、聞……………四〇
かなしむ 悲、哀……………三	さず 創、疵、傷、瑕……………四〇
かなふ 適、稱、協……………三	さばむ(さばまる) 極、究、窮……………四一
かはる(かふ) 變、代、易、更、替、換……………三	さよし(さよむ) 清、淨、潔……………四一
かへりみる 顧、省、眎……………三	さる 切、斬、伐、剪……………四一
かへる(かへす) 歸、還、廻、復……………三	くノ部
復……………三	くだく 碎、摧……………四一
かんがふ 考、按……………三	くつがへる(くつがへす) 覆、顛……………四一
かわく(かわかす) 乾、燥……………三	

くづる 崩壊、頽	こひねがふ 希冀、尙
くばる 配賦	庶幾
くむ 汲、酌、掬、斟	こふ 請乞
くらふ(くふ) 食、喫	こゆ(こず) 越、踰、超
くるしむ(くるし) 苦、困、罌	これ(この) 此、是、斯、之
けノ部	維
けがる(けがす) 汚、瀆	ころす 殺、誅、戮、弑
こノ部	さノ部
こなふ 答、對、應	さかふ 逆、忤
ことごとく 盡、悉	さかんなり 盛、壯、昌
ことば(ことなり) 殊、特、異、罕	隆、熾

さく 裂、割、劈、剖	しきりに 頻、連、切
さぐる(さがす) 探、搜	したがる 從、隨、循、遵、率
さしはさむ 挾、挿	順
さなむ 定、奠、決	したふ 慕、欽、戀
さとする(さとす) 覺、悟	しづか 靜、閑、徐、舒、寂
曉諭	しばらく 暫、姑、且
さむ(さます) 覺、醒、寤	しりぞく 退、却、斥、黜、擯
さる 去、違、距	しる 知、識
さわぐ(さわがす) 騷、躁	しるす 記、誌、識、錄
噪、譟	すノ部
しノ部	すくなし 少、寡、鮮、尠

すくふ 救濟、援……………三	せまる 逼、薄、迫……………六
すしむ 勸進、薦、羞……………三	せむ 攻、責、譴、讓、數……………六
すつ(すたる) 捨、棄、撤、廢……………三	そノ部
すでに 既、已……………三	そこなる 害、傷、損、賊……………七
すなはち 則、即、乃、廼……………三	そしる 誹、謗、譏、毀、短……………七
輒、便……………三	そく 注、濺、洒、沃、灌、漑……………七
すべて 都、渾、總、凡……………三	そなる 備、供、具、饌……………七
すみやか 速、急……………三	そばだつ 敵、峙、側……………七
すむ 住、棲……………三	そふ 添、副、貳、傍……………七
せノ部	そむく 背、叛、乖……………七
せまし 狹、隘、褊……………六	それ(その) 夫、其、厥……………七

たノ部	質……………八
たがひに 互、遞、迭……………三	たちまち 忽、倏、乍……………三
たがふ 差、違……………三	たつ 立、起、建……………三
たくはふ 貯、蓄、儲……………三	たづぬ 尋、原、討、踪……………三
たけなは 酣、闌……………七	たとひ(たとへば) 假令、譬、喻、例……………六
たすく 助、援、祐、佐、輔……………七	たのしむ 樂、娛、嬉……………六
扶、資……………七	たのむ 賴、恃、負……………六
たゞ 唯、惟、但、只、徒、啻……………六	たふ 堪、耐、任、勝……………六
たしかふ 戰、鬪……………六	たふとし(たふとぶ) 尊、貴、尙、崇……………六
たしく 叩、敲……………六	
たゞす 正、訂、糾、匡、規……………六	

たふる(たふす) 倒斃、仆 <small>ハ</small>	つぐ 繼續、嗣次、接 <small>三</small>
たましく 偶會、適 <small>六</small>	つくす 盡、竭、殫、悉、殲 <small>三</small>
たまふ 賜、錫、給 <small>六</small>	つくる 作、造、製 <small>四</small>
ちノ部	つしむ 慎、謹、欽 <small>四</small>
ちかふ 誓、盟、矢 <small>六</small>	つとむ 勤、務、勉、努、力 <small>五</small>
つノ部	つね 常、恆、每 <small>六</small>
つかさどる 掌、司、典 <small>九</small>	つひに 遂、終、竟、卒 <small>六</small>
つかふ 使、事、仕 <small>九</small>	つぶさに 具、備 <small>七</small>
つかる 疲、羸 <small>九</small>	つまびらか 詳、審 <small>六</small>
つく 突、衝、撞、擣 <small>九</small>	つらなる(つらぬ) 連
つく 就、附、即 <small>九</small>	聯列 <small>九</small>

とノ部	ともに 與、共、俱、偕 <small>三</small>
とがむ 尤、咎 <small>九</small>	とる 取、採、攬、操、執 <small>四</small>
とき 時、秋、辰、期 <small>九</small>	なノ部
ところ 所、處 <small>〇</small>	ながし 長、永 <small>五</small>
とづ(とぎす) 閉、闔、緘、封 <small>〇</small>	なかれ 勿、毋、莫 <small>六</small>
としのふ 調、整、齊 <small>二</small>	なく 鳴、啼、泣、哭、啣 <small>六</small>
とむむ(とまる) 止、留 <small>二</small>	なげうつ 抛、擲 <small>七</small>
停 <small>二</small>	なびく 慨、嘆、嗟 <small>八</small>
とふ 問、訪、訊 <small>三</small>	なす(なる) 爲、成、就 <small>八</small>
とほる(とほす) 通、徹 <small>三</small>	なほ 猶、尙 <small>九</small>
透、洞 <small>三</small>	なやむ 惱、艱 <small>九</small>

ならふ 習、肄、倣……………二〇	ぬすむ 盜、偷、竊……………二五
なる(ならず) 馴、狎、褻、慣二〇	ぬたむ 妬、嫉、媚、妬……………二六
にノ部	ぬむる 眠、睡、瞑……………二六
にぐ 北、脫、亡、逃、遁……………二二	のノ部
にくむ 惡、憎……………二三	のこす(のこる) 遺、貽、殘……………二七
になふ 荷、擔……………二三	のぞむ 臨、莅、望……………二七
にばかに 卒、暴、遽、俄……………二三	のお(のぼす) 伸、延、舒、展……………二八
にる 似、肖……………二三	のお 述、宣、陳、演……………二九
にる 糞、烹……………二四	のぼる(のぼす) 登、昇、升、陞、騰、上……………三〇
ぬノ部	
ぬく 拔、抽、挺……………二四	

のむ (のます) 飲、吞……………三〇	はやし 早、夙、捷、速……………三六
のる(のす) 乘、騎、駕……………三三	はらふ 掃、拂、攘……………三七
はノ部	はるか 遙、遐、邈、遼……………三七
はかる計、謀、量、測、度、圖……………三三	ひノ部
はく 吐、噴、嘔……………三三	ひきゐる 率、帥……………三八
はじめ(はじめ) 始、初、首、創……………三四	ひく引、曳、牽、挽、援、延……………三九
はしる(わしる) 走、奔、趨……………三四	ひくし 低、卑……………三〇
はづ(はず) 恥、辱、愧、慙……………三五	ひそかに 竊、私、陰、潛……………三〇
赧、忤……………三五	ひとし 均、等、齊……………三一
はなはだ 甚、酷……………三六	ひとへは 單、偏……………三一
	ひま 隙、間、釁……………三三

ひろし(ひろむ) 廣博、弘

汎、寬、闊……………二三

ふノ部

ふくむ 含、銜……………二四

ふす 臥、伏、俯……………二四

ふせぐ 防禦、拒……………二四

ふむ 蹈、踏、履、踐……………二五

ふるふ 揮、振、奮……………二五

へノ部

へだつ 隔、阻……………二六

へつらふ 詔、諛、佞……………二七

ほノ部

ほこる 誇、矜……………二七

ほしいまゝに 恣、擅、放、

縱、肆……………二八

ほとんど 殆、幾……………二九

ほとり 邊、畔、側、瀕……………二九

ほゞ 略、粗……………二九

ほむ 褒、譽、賞……………三〇

ほろぶ(ほろぼす) 亡、滅……………三〇

まノ部

まうす 申、白、啓、奏、稟……………三一

まこと(まことじ) 眞、誠

信、實……………三二

まさじ 正、當、將、方……………三三

ますく 益、增、滋……………三三

また 又、亦、復……………三四

まつ 待、俟……………三五

まつたし 全、完……………三五

まつる 祭、祀……………三六

まもる 守、護、衛……………三六

まれ 稀、罕……………三七

みノ部

みだりに 妄、猥、濫……………三七

みち 道、路、途……………三七

みつ 滿、盈、充、實……………三八

みづから 自、躬、親……………三八

みな 皆、咸……………三九

みる 見、視、看、觀、覽……………三九

むノ部

むかふ 向、迎、邀……………四〇

むくゆ 報、酬……………四〇

むすぶ 結、締……………四〇

むなし 空、虛、曠……………四一

めノ部

めぐる(めぐらす) 巡、繞

旋、周、環

もノ部

もつとも 最、尤

もと 本、元、原、素、固

もとむ 求、索、需、要

もとる 戻、悖、復、狠

もの 者、物

やノ部

やしなふ 養、牧、畜、育

やすし 安、易、寧、康、泰

やどる 宿、舍

やはらぐ(やはらか) 和

柔

やぶる 破、敗

やまひ 疾、病、疫、癘

やゝ 稍、較

ゆノ部

ゆく 行、往、逝

ゆづる 讓、禪

ゆるし(ゆるやか) 緩、寬

ゆるす 赦、許、允、免、宥

よノ部

よ 世代

よく 能、克、善

よし 善、好、佳、良

よぶ 呼、喚

よる 因、由、據、依、賴、憑

よろこぶ 喜、悅、怡、欣、歡

わノ部

わかる(わかつ) 分、別、訣

わく 涌、沸

わざはひ 禍、殃、災

わする 忘、遺

わたる 渡、濟、互、涉、彌

わづかに 僅、纔

わらふ 笑、哂、嗤

われ 我、吾、予、余、朕

をノ部

をかす(おかす) 犯、侵、冒

をさむ(をさまる) 治、修

理、收、納

をしふ 教、訓、誨

をしむ	吝、嗇、惜	……	一七
をばる(をふ)	終了、畢、		
卒	……		一七
をる	居、處	……	一七
をる	折、拉、拗	……	一七

附録

物數稱呼例	……	一
類字例	……	三
古字例	……	六
俗字例	……	七
略字例	……	二
普通漢字表	……	三
普通用語表	……	四

漢字用例目次 終

漢字用例

あ、部

あ、

嗚呼

嘆美哀傷悲恨ヲ表スル感歎詞ナリ。

○嗚呼盛ナル哉

噫

哀傷痛恨ヲ表スル感歎詞ナリ。

○噫、斗筭之人、何足

算フルニ乎論

あがなふ

購ふ

金錢ニテ買ヒ取ルコト。

○購求○購フ千金

あ、 あがなふ

あがなふ あぐ あたしかし

二

贖ふ 罪ノ代リニ出 ○贖罪

あぐ(あがる)

揚ぐ 高ク打チア ○抑揚 ○揚揚自得

舉ぐ 下ヨリモノヲ ○推舉 ○一舉手一投足

昂がる 氣ノアガ ○激昂 ○昂然

あたしかし(あたしむ)

暖かし 熱度ノ高キ ○日暖 カナリ ○風暖 カナリ

温かし 水ノ稍アタ、 ○温泉 ○温暖 ○温和

暖む 物ヲアタ、ム ○暖酒 ム ○暖爐 テ

あたる(あつ)

當る 正面ニ對 ○正當 ○至當 ○適當 ○擔當 ○當直

中る 的ニアタ ○的中 ○百發百中 ○中毒

方る ○方今

あつむ(あつまる)

集む 多ク一ツ所ニ ○召集 ○集會 ○集合

纂む 書物ヲカキア ○編纂

あたしむ あたる あつむ

三

輯む ○編輯 ○纂輯

聚む ○聚合 ○聚散

萃む ○拔萃

あと

跡足アトノ ○足跡 ○形跡

迹、蹟此ノ二字ハ跡ト通用ス。 ○墨蹟 ○事蹟 ○不踐迹ヲ論

痕アトノツキタル ○瘡痕 ○涙痕 ○墨痕

軌車輪ノアト ○軌道 ○同軌 ○軌範

あはれむ

憐むカハユク ○愛憐 ○可憐 ○憐花 ○憐月

憫む心ニフビンニ ○憫民

あふ(あはす)

合ふ物ノ一ツニナル ○會合 ○符合 ○合計

遇ふ期セズシテ出デア ○奇遇 ○遭遇

會ふ ○會話 ○會議

逢ふ ○相逢

遭ふ ○遭難

あへて

敢て 「オシキツテ」ト云フ意、
ハハカル所ナキ義。 ○敢問 ○敢辭 ○敢爲

肯て 「キニムイテ」ト云フ意、心
中ニ納得シテユルス義。 ○肯來 ○肯諾

あまねし

普ねし 總體ニカ
カル義。 ○普及 ○普天之下、莫^レ非^ニ王土^ニ經^ニ詩

周ねし ユキト^ゞ
ク義。 ○周到

遍ねし ○遍照

あやふし(あやぶむ)

危ふし アブナクテ顛覆ニセ
マリ近ヅクコト。 ○危難 ○危急 ○危峰 ○危

樓

殆ふし アブナクニテ不
安心ナルコト。 ○危殆 ○岌岌乎亦曰殆哉^{トシテ}禮^記

あやまり(あやまち、あやまる)

誤り ○誤解 ○誤謬

謬り ○謬見

過ち 思ヒガケヌ仕ソコ
ナヒヲスルコト。 ○過失

あらたむ あらはる

八

あらたむ(あらたまる)

改む

モノヲシナ
ホスコト

○更改 ○變改 ○改正 ○過

ヲス
チ
ルコト 則勿憚

改 ムルニ
論
語

俊む

心ヲ直ス
コト

○悔俊

革む

根本ヨリ變
ズルコト

○改革 ○革命

更む

○變更 ○更新

あらはる(あらはす)

顯はる

幽ノ反對
ナリ

○顯微 ○貴顯 ○顯榮

著はる

明カニ見ユルコト、
又書物ヲ作ルコト

○著明 ○顯著 ○著述

彰はる

○彰著 ○彰明 ○顯彰

見はる

○隱見 ○發見

現はる

○出現 ○現象

表はす

○表彰 ○表出

あらふ

洗ふ

水ヲソ、ギテ
キヨムルコト

○洗手

○洗心

濯ぐ

○洗濯

あらはる あらふ

九

あり いかる

あり

有り 物ノアル ○有無

在り ソノ處ニアルコト、在ノ字 ○存在 ○死生有_リ命_リ富貴

在_リ天_ニ論_語

い / 部

いかる

怒る イカリノ外ニ見 ○怒色 ○激怒 ○怒髪 ○喜怒

恚る 心ニイマ_クシ ○愠恚

愠る 心ニムツト ○人不_レ知_ラ而不_レ愠_ラ 語論

忿る ○忿怒 ○忿怨

いこふ(やすむ)

息ふ 安氣ニヤス ○休息 ○安息日

憩ふ 小ヤスミヲ ○休憩

休む 務ヲヤム ○休暇 ○休戰

いさむ

諫む 其非ヲサシシテ ○諫言 ○直諫

いかる いこふ いさむ

諷^{フツ}す ヨソゴトヲ云ヒテ遠マハ
シニ人ニ異見スルコト。○諷諫○諷諭○譏諷○諷

議

いだく

抱く カ、ヘモツコト。○懷抱○抱負

懷く フトコロニス入ル、コト、物ヲ秘藏スルコト、心ニ思フコト。○懷^グ壁^チ○本懷○述懷

擁く ○擁護

いたむ

悼^{ナゲカハシク}む 思フコト。○悲悼○哀悼○追悼

痛む イタミヲ覺ユルヲ云フ、ソレヨリ轉ジテ事ノ切ナルトキニ用フ。○痛恨○悲痛○痛

嘆 ○痛惜 ○痛快

慘^{ムゴキコト、又カナシキサマヲ云フ。}む ○慘忍 ○慘烈 ○慘憺

疼^{イタミノ始終ヤマヌコト。}む ○疼痛

傷^{イタミ}む ○哀傷 ○悲傷 ○毀傷

いたる

至^{ユキトマクコト、又至極ノ義ニ用フ。}る ○至大 ○至極 ○知至^ル

到^{コ、ヨリカシコニイタリ、カシコヨリコ、ニイタルコト。}る ○到^ル處 ○到著

詣る ○造詣 ○参詣

いっはり(いっばる)

偽り 誠又ハ真ノ 反對ナリ。 ○詐偽 ○虚偽 ○偽作 ○偽物

詐り 虚言ヲ吐クコト。 ○巧詐 不如 拙誠ニ韓非

詭り ○詭詐 ○詭計 ○詭巧

いぬ

寝ぬ 寝ニ就クコト。 ○就寝 ○寢食

寐ぬ ネイルコト。 ○假寐 ○寤寐

いばふ

祝ふ 行末ヲイノルコト。 ○不敢 以テ 祝 ヲ 而敢 テ 以 テ 規 ヲ ○祝 文韓

文 ○祝詞

賀す ヨロコビヲノブルコト。 ○年賀 ○賀状

いふ

曰ふ 人ノ言ヲ直チニウツストキ、物ヲ名ヅクルトキ、又物ヲ數ヘ立ツルトキ等ニ用フ。 ○孔子曰 ○

詩曰 天地之大德 曰生 易經 ○日 仁曰義

云ふ 「日フ」ト略ボ同義ナリ。又文ノ終ニ置クトキハ「コレノ」ト申スコトデアリマス「トイフ意ナリ。」 ○子云

○夏殷以前其詳ナルコト 靡シト 記スル 云フ 食貨志

言ふ心ニ思フ所ヲ口ニノブルコト。○言論○來予與爾言ニ

謂ふ評判ヲスルトキ、物ヲ名ヅクルトキ、ハナシカクルトキ等ニ用フ。○孔子謂ニ季氏ヲ論○

天命之謂性中庸○謂ニ顔淵ニ曰ク

いましむ(いましめ)

戒む前カドヨリ注意シテ事ヲヨク守ラスルコト。○警戒○戒心

誠む○前車覆後車ニ誠ナリ漢書

警む目ヲサマシ驚カスコト。○警夜○警察

箴む○心箴○規箴○箴言

いやしむ(いやしむ)

卑し尊ノ反對ナリ。○尊卑○卑見○卑劣

賤し貴ノ反對ナリ。○貴賤○貧賤

鄙し○鄙陋○都鄙

陋し○固陋○陋巷

うの部

う

得

失又ハ喪ノ反對ニシテ、自然ニ手ニ入ルコト。

○得失 ○知

得

而不知

喪

フコトヲ 易 經

獲

故意ニウ ルコト ○捕獲

うかゞふ

伺ふ

ヒソカニ様子ヲ ハカルコト。

○伺候

窺ふ

ノゾク コト ○管中 窺豹

うく

受く

モノヲウケ トルコト ○實受 天福

承く

カナタヨリ來ルヲコナタ ニマチテウケトルコト ○了承 ○承諾

稟く

天又ハ上ノ命ヲ ウクルコト ○稟賦 ○稟受 ○稟旨

饗く、享く

此ノ二字ハ 同義ナリ。 ○祭 則鬼享之

うごく(うごかす)

動く

静ノ反對 ナリ ○動止 ○舉動

揺く

定ノ反對 ナリ ○動揺 ○山岳揺

蕩く

揺ト同義 ナリ ○搖蕩 ○震蕩

うしなふ(うす)

失ふ 手バナス ○得失 ○失亡 ○遺失

喪ふ 見エナクナ ○喪母ツ

亡ふ 影モ形モナクナルヤウニ取リウシナフコト ○滅亡

うつ

撃つ タ、クコト、ヤ ○攻撃 ○擊殺

打つ ○打撃 ○毆打

拍つ ○拍手

撲つ ○撲滅

討つ ○征討

伐つ ○斬伐 ○征伐

うつす(うつる)

移す 處ヲカフ ○移住 ○移轉

遷す、徙す 此二字ハ通用ス ○遷移 ○左遷 ○遷謫 ○徙善

寫す モノヲカキウツ ○謄寫

摹す 物ノ形ヲ似スルコト ○摹倣

描す 畫ヲウツ ○描摹

うばふ

奪ふ ムリニト ○強奪 ○予奪 ○奪取

篡ふ 下ヨリ上ノモノヲ ○篡賊 ○篡弒

褫ふ トリアグ ○褫奪 ○褫位

うらむ

怨む 人ヲウラミ又ア ○恩怨 ○私怨

恨む 怨ノ義ニ ○悵恨 ○遺恨

憾む 口惜シク思 ○遺憾

うるはし

美はし 立派ナルコト、悪又 ○美服 ○美俗 ○美味 ○美

徳 ○美名

麗はし ○美麗

妍 ○妍麗 ○妖妍 ○妍美 ○爭妍

艶 ○華艶 ○艶麗

うるほふ(うるほひ)

濕ふ シメルコトニシテ ○水就 濕

うるはし うるほふ

潤ふ ウルホフコト、ツ ○温潤 ○潤澤

霑ふ ○霑染 ○霑被

うれふ(うれひ)

憂ふ 物事ヲ心配スルコト、又喪ノコトヲ云フ。○憂國 ○内憂 ○居^ル憂

患ふ 災難ナドニアヒテマノアタリ心配スルコト。○外患 ○憂患

愁ふ モノサビシクオモフコト。○憂愁 ○旅愁 ○客愁

え の 部

えらぶ

選ぶ エリヌクコト。○文選 ○選舉 ○選擇 ○唐詩選

撰ぶ コシラヘ^ルコト。○撰著 ○撰述

擇ぶ ヲシアシヲエリ^ワクルコト。○擇言 ○擇行

お の 部

おくる

送る 人ノ行ヲオクルコト、又ハ物ヲ運搬スルコト。○送別 ○目送 ○運送 ○送

達

贈る 人ニモノヲオクルコト。○贈言 ○贈與

おこたる

怠る 心ノタル ○怠惰 ○怠慢

惰る 勤ノ反對ニシテ精ヲ出サヌコト ○惰弱

懈る ○懈怠

おこる(おこす)

興る オコリタツコト ○興廢 ○奮興 ○勃興

起る オキアガルコト ○蹶起 ○興起 ○蜂起

おこる

奢る 儉ノ反對ニテ、華美ヲ好ムコト ○奢侈 ○國奢 レバ 則示 テ 之以 スニ

レ 儉 ヲ 記 レ

驕る 謙ノ反對ニテ高ブルコト ○驕傲 ○驕奢 ○驕慢 ○富 ミテ 而無 シ

レ 驕 ル コト 論 語

傲る 人ヲ輕ンズルコト ○傲 ル 世 ニ ○傲慢不遜

おす

押す 上ヨリオシツクルコト ○押壓

推す ワキカラオシヤルコト ○推 ス 門 ヲ ○推考

壓す カラ以テオシ ツクルコト ○壓力 ○壓制 ○鎮壓

おそる(おそれ)

恐る 心ニキツカ フコト ○恐懼 ○恐怖 ○恐惶 ○惴恐

畏る オソルハコトノ 甚シキヲ云フ ○畏敬 ○畏服

懼る ○亂臣賊子懼 子孟

おつ(おとす)

落つ 物ノ上ヨリオ ツルコト ○落葉 ○花落 ○落第

隕つ 高キ處ヨリオ ツルヲ云フ ○星隕如 雨 ○隕 于 深淵

墮つ、墜つ 此ノ二字ハ落ノ字義ニ近シ、車、馬、船ナドヨ リオツルニハ 茫、墜、墮ノ三字トモニ用フ。

おどろく(おどろかす)

驚く ビツクリス ルコト ○驚嘆 ○喫 了 一驚 ヲ

愕く 驚ノ字ヨリ ハ重シ ○驚愕

駭く ○驚駭

おふ

追ふ アトヨリオヒ カクルコト ○追跡 ○追従 ○追懷

逐ふ オヒハラフコト、 オヒマハスコト ○放逐 ○逐 ニ 水草 ニ 而居 ル

おほふ

覆ふ 上ヨリカブセ ○覆載 ○天無私覆フコト禮記

蓋ふ フタヲスルコト ○力拔山兮氣蓋世チ史記

蔽ふ オホヒカク スコト ○隱蔽 ○一言以蔽之チ論語

掩ふ サヘギリカク スコト ○掩護 ○掩其不善而著其善チ大學

おほむぬ

概ぬ オシナラシテ ト云フコト ○梗概 ○概略

率ぬ ナラシテミツモル意ナリ ○率常在ニ宣帝記下杜

おもふ

思ふ 工夫思案スルコト ○再思 ○三思 ○慎思

想ふ オモヒマハ スコト ○想像 ○思想 ○想慕

懷ふ ○懷舊 ○胸懷 ○襟懷

惟ふ タバー筋ニオモフコト ○思惟 ○伏惟 ○恭惟

顧ふ ○回顧 ○顧慮

おもむく

赴く 其ノトコロヘ行キカナルコト ○赴任

おもむく かうばし かがぐ

三二

趨く、趣く

此二字ハ同義ナリ、何レナリトモ一箇所ヲ心ガケテ走リユクコトニ用フ、又心ノオモムキヲ云フ。

○趨走 ○志趣 ○幽趣 ○雅趣

かノ部

からばし(かぐはし)

香ばし、馨ばし カヲリノヨキコト。 ○馨香

芳ばし ○春芳 ○衆芳 ○餘芳

かがぐ

掲ぐ 高キ處ニカクルコト。 ○掲載 ○揭示

褰ぐ ○褰帷_チ ○褰裳_チ

かがやく(かがやく)

耀く テリワタルコト。 ○光耀 ○耀耀

曜く 日等ノ光ヲイフ。 ○曜靈

煥く 光ノ盛大ナルコト。 ○煥乎 ○明煥

煌く キラ／＼トヒカルコト。 ○煌煌

灼く モエタツヤウニ見ユルコト。 ○灼灼

かく(かゝる)

かがぐ かがやく

三三

掛く

ヒキカクルコト、又
ヒキカ、ルコト。○掛物○掛ル網羅

懸く

ツリカクルコト、又ツナ
ギトメラル、コト。○懸命○懸軍萬里

係る ○關係

かくる(かくす)

隠る

顯ノ反對ニシテ、
アラハレヌコト。○隱遁○隱居○隱微

竄す

コ、カシコニ逃ゲマハ
リテカクル、コト。○遁竄

匿す

ツ、ミカク
スコト。○匿名

かたし(かたむ)

堅し

脆ノ反對
ナリ。○堅強○堅牢○堅固○中堅

固し

ユルガヌ
コト。○險固○金城カタメ固

硬し

軟ノ反對ニシテ、
シンノアルコト。○硬骨

かつ

勝つ

負ノ反對
ナリ。○勝利○勝負○百戰百勝

克つ

勝チ難キニ勝
ツヲ云フ。○克ツ已ニ○克ツ其城ニ

捷つ

軍ニカツ
コト。○戰捷○捷書

かたしむ

かなしむ かなふ かはる

三六

悲む

心ニイタムコト

○慈悲 ○悲喜

哀む

心ニフカクイタムコト

○悲哀 ○哀樂 ○哀痛

かなふ

適ふ

宜シキヲ得タルコト

○適當 ○適合

稱ふ

ツリアフコト

○名稱 ○實

協ふ

和合スルコト

○協同 ○協力

かはる(かふ)

變はる

常ノ反對ニシテ、ウツリカハルコト

○世變 ○時變 ○變易 ○變

改

代はる

他ノモノニカハルコト

○代人 ○代理

易ふ

一物ノ變ズルコトニモ、物ト物トヲトリカフルコトニモ用フ

○變易 ○更易 ○貿易

○交易

更ふ

○變更 ○更代

替ふ

○交替 ○爲替 ○隆替

換ふ

○交換

かへりみる

かはる

三七

かへりみる・かへる

三八

顧る

フリカヘリテウシ
ロヲミルコト。

○左顧 ○眷顧 ○恩顧

省る

見廻リテアルコト、又心
ノウチニ見廻ルコト。

○省察 ○自省 ○反省 ○

檢省 ○省識

眴す

横目ヲツカ
フコト。

○顧眴

かへる(かへす)

歸る

出デタル處ヘタ
チカヘルコト。

○歸宿 ○歸國 ○歸朝

還る

同シ道ヲカ
ヘルコト。

○往還

廻る

マハリモド
ルコト。

○迂廻

復る ○往復

かんがふ

考ふ

オモヒハカ
ルコト。

○考古 ○思考

按ず

胸ニ手ヲアテ、ト
クト考フルコト。

○按出

かわく(かわかす)

乾く

濕ノ反對ニシテ、シメ
リケノヌケタルコト。

○乾燥 ○乾物

燥く

潤ノ反對
ナリ。

○高燥

き / 部

かへる かんがふ かわく

三九

きく(きこゆ)

聴く キカント思ヒ ○謹聴 ○傍聴 ○聴_レ雨_チ

聞く 先ノ聲ノ耳ニ入ルコト、又 ○見聞 ○令聞 ○聞達

きず

創 キリキズ ○創傷

疵 アザノ如キキズヲ云フ ○小疵

傷 ケガノコト ○負傷

瑕 モチマハノキズ ○瑕瑾 ○疵瑕

きはむ(きはまる)

極む 至極ノ義ナリ ○極致 ○至極 ○極知

究む 終リマデ尋ネ至ル意ナリ ○究竟 ○研究

窮む ○窮理 ○窮通 ○窮達

きよし(きよむ)

清し 濁ノ反對ニテ、水ノスムコト ○水清 ○清風 ○清潔

淨し 穢ノ反對ニシテ、キレイナルコト ○清淨

潔し ○高潔 ○潔白 ○純潔

きる

切る 刀ニテキリキ ○切斷
ザムコト

斬る キリハナ スコト ○斬殺 ○斬罪

伐る タ、キキ ルコト ○伐木

翦る ハサミキ ルコト ○翦彩花 ○勿翦_{ルコト}

く、ノ 部

くだく

碎く 細カニ破 ルコト ○破碎 ○零碎

くつがへる(くつがはず)

摧く 竹木又ハ器具ナドヲ クダキヒシグコト ○破摧 ○摧折 ○摧損

覆る ヒツクリカ ヘルコト ○顛覆 ○反覆

顛^{ダン}ず サカサマニ倒 ル、コト ○顛倒

くづる

崩る 高キ山岳ナドノク ヅレオツルコト ○崩壞

壊る 凡テ物ノソコナヒ クヅル、コト ○破壊 ○壞亂 ○敗壞

頽^タる 下墜ノ義 ナリ ○敗頽 ○傾頽

くだく くだく くだく くだく

くばる

配る

相当ニワリア
ツルコト

○配合 ○分配 ○配達

賦す

○賦税 ○賦課

くむ

汲む

水ヲクム
コト

○汲水 ○汲々

酌む

酒ヲクム
コト

○獨酌

掬む

兩手ニテスク
ヒトルコト

○掬水

斟む

ウメアハ
スコト

○斟酌

くらふ(くら)

食ふ

モノヲク
フコト

○飲食 ○食堂 ○食_ム祿

喫す

○喫煙 ○喫茶

くるしむ(くるし)

苦しむ

辛苦ノ義
ナリ

○艱苦 ○苦心 ○千辛萬苦

困しむ

ナシキス
ルコト

○貧困 ○困窮 ○困乏 ○困難 ○困倦

け

ノ部

けがる(けがす)

けがる ことたふ

汚る

ケガル、
コト。○汚穢

瀆す

心ヤス過ギテ無禮
ニ流ル、コト。○褻瀆○冒瀆

こノ部

ことたふ

答ふ

サキノイフコトヲウケ
テコタヘスルコト。○問答○返答○答案

對ふ

人ノ問ニ一コトヲワ
ケテコトフルコト。○應對

應ふ ○應接 ○應答

ことごとく

盡く

ノコラズノ
義ナリ。○盡滅

悉く

事ヲキハメツ
クス義ナリ。○悉皆

ことば(ことなり)

殊に

キレハナレテ
トイフコト。○殊美

特に

トリワキテ、ヒトリ
スグル、義ナリ。○特別○特許○奇特○特立獨

行

異なり ○異時 ○異日 ○異域

ことひねがふ

ことごとく ことに

希ふ 事物ノデキルヤウニ ○希望

冀ふ ネガフ辭ニシテ希 ○仰冀

尙ふ、庶幾ふ 此ノ二字何レモ「ナニト」ノ義ナリ。

こふ

請ふ マコトヲ以テネガヒモトムル意ニテ、 ○請求 ○請願

○申請

乞ふ コヒモトム ○乞斧正 ○乞食

こゆ(こず)

越ゆ、踰ゆ 此ノ二字ハ同義ニシテ、 ○越職 ○越俎 ○

超越 ○僭越 ○踰牆

超ゆ ○超然 ○超格 ○超等

これ

此れ、是れ 此ノ二字ハ何レモ「コレ」「コノ」「コ、」又ハ「カク」ト訓ズ「此レ」ハ指ス所切ナルモ「是レ」ハ指ス所汎

クシテ ○此、日 ○是、日 ○於、此 ○是、以 ○如、是

斯れ 「此レ」ト畧ボ ○斯道 ○斯人、也、而有、斯疾、也 語論

之れ 上又ハ下ニアル事項ノ代名詞ナリ、漢文ニテハ音調ヲヨクスル爲メニ助辭トシテ用フルコトアリ。 ○天命

こゆ これ

これ ころす

五〇

之チ謂フ性ト

維レれ ○維レ時

ころす

殺ス イノチヲトルコト ○殺戮 ○殺伐 ○自殺

誅チキす 罪アルモノヲ殺スコト ○誅伐 ○誅殺

戮ウす ミセシメニ殺スコト ○誅戮

弒ソす 尊長ノ人ヲ殺スコト ○弒逆

さ
ノ
部

さかふ

逆フ 順ノ反對ナリ ○順逆 ○横逆 ○逆無道

忤フ 心ニサカフコト ○忤 ヒラ其衆 ニ以テ伐 ツ有道 チ禮ニ記

さかんなり

盛ンなり 衰ノ反對ニテ、サカリ最中、頂上ノ所ナリ ○盛大 ○盛衰

壯ンなり モノヅヨキコト ○雄壯 ○壯健 ○壯勇 ○老益イ

壯ナリ ○壯丁

昌ンなり ○繁昌

さかふ さかんなり

五一

隆んなり ○隆盛 ○隆興

熾んなり ○炎熾 ○熾盛 ○昌熾 ○熾隆

裂く

裂く ヒキサク ○分裂 ○開裂 ○四分五裂

割く キリトル ○割據 ○割取 ○割腹

劈く 斧ニテウチ ○劈薪 ○劈山

剖く 割キ分ク ○解剖 ○剖竹木 ○剖腹 出腸

探る(さがす)

探る サキノ様子ノ知レヌモノ ○探湯 ○探虎口 ○探

偵

捜す アリタルモノ、ミエヌヲ ○搜索

挟む

挟む コワキニカイコムコト、ソレヨリ轉ジ ○挾書 ○不挾

貴

挿む サシコム ○插花

さく

定む 事ノ一定シテオ ○決定 ○確定 ○定論 ○未定

奠む 定ト同義 ○奠都

決す ○決斷

さとる(おとす)

覺る、悟る 此二字ハイツレモ眼ノサムル義 ○覺悟 ○知覺

○穎悟

曉る ○通曉 ○曉ニ文義ヲ

諭す ○教諭シテ 而德成ル也禮記

おむ(おぼす)

覺む 目ノサム ○三皇之事、如ク夢、如シ覺ムルガ列子

醒む 酒ノサム ○衆人皆醉、我獨醒メタリ楚辭

寤む ○寤寐

おる

去る 來ノ反對 ○去年 ○去月 ○薨去 ○死去

違る ハナル ○忠恕違ハサル道不カ遠中庸

距る ○距離

おむ(おぼす)

さわぐ(さわがず)

騒ぐ イソガハシクミ ○騒動 ○騒然 ○騒亂

躁ぐ 静ノ反對ニシテ、急動ノ義ナリ。 ○躁急 ○浮躁 ○輕躁

噪ぐ 鳥ノムラガリテ聲ニ鳴クコト。 ○羣噪 ○亂噪 ○蟬噪

譟ぐ 人ノ聲々ニヤカマシクワメクコト。 ○喧譟 ○鬧譟 ○鼓譟

しノ部

しきりに

頻りに 「オヒカケオヒカケ」ノ意ニテ「セハシナク」ト云フ程ノ語ナリ。 ○頻繁 ○頻年

連りに 「ツマケテ」ト云フ意ナリ。 ○連年 ○連 有リ災異

切に 「シミジミ」トイフ程ノ意ナリ。 ○切 思フ ○剴切 ○親切 ○切迫 ○

切要 ○激切

したがふ

従ふ 違ノ反對ニシテ、 ○服従 ○適従 ○侍従 ○雲 從

龍

随ふ 從ノ義ニ近シ「マニ」ト云ヘル詞ハ此ノ字ニヨク合フナリ。 ○隨行 ○隨意 ○追

隨

したかふ したふ

五八

循ふ モノニソヒテ ○循環 ○因循 ○循 法度

遵ふ、率ふ 此ノ二字ハ循ト同義ナリ ○遵守 ○遵奉 ○率 祖訓

順ふ ○順逆 ○柔順 ○和順 ○孝順 ○遜順 ○順風 ○

溫順

したふ

慕ふ ハナレガタク思フコト ○愛慕 ○思慕 ○羨慕 ○景慕 ○欽慕

欽ふ タフトク思ヒテシタフコト ○欽仰 ○欽 英風

戀ふ ○戀々

しづか

静か 動又ハ躁ノ反對ニシテ、ウゴカヌコト、サワガシカラヌコト ○沈静 ○閑静 ○静観

○静坐

閑か 忙ノ反對ナリ ○消閑 ○閑散 ○閑地 ○閑日月

徐か 疾ノ反對ニテ、ユルヤカナルコト ○徐歩 ○徐言

舒か 迫ノ反對ニシテ、ノブル意アリ ○用 之者舒 フルコトヲシツカナリ大

寂か ○寂然 ○寂寞 ○閑寂 ○寂寥

しぼらく

しづか

五九

しばらく しりぞく

六〇

暫く 久ノ反對ニシテ、「チヨツトノマシナリ、但シ事 ○暫時

姑く 事ノ上ニテ「マア」ト云フコト。 ○姑息 ○姑 舍之 子孟

且く 姑ト同意 ○苟且

しりぞく

退く アトヘサガ ○進退

却く ○退却 ○且戰且却

斥く ○排斥 ○斥逐 ○屏斥

黜く 官位ヲ貶シ下 ○黜陟

擯く ○擯斥

しる

知る、識る 此ノ二字ハ大抵通用スレドモ差別アリ、知ル人ヲ知ル

レ己チハ皆深ク知ルコトナレドモ識ル名ヲ識ル面ヲハ見 ○知己 ○識 其一 而不知 其

二 子 二 子

しるす

記す 書キトム ○書記 ○筆記

誌す、識す 姓名又ハ自製ノ文章ナ ○某誌

しりぞく しる しるす

六一

しるす すくなし

録す

書キウツ
スコト。○記録

すノ部

すくなし

少なし

數ノ多カラ
ヌコト。○多少

寡なし ○衆寡

鮮なし ○鮮少

尠なし

鮮ニ同
ジ。○不尠

すくふ

救ふ

タスケマモ
ル意アリ。○救濟

濟ふ

コエカヌル處ヲコ
サスル意アリ。○普濟○濟度○濟世

援ふ

ヒキヨセテタス
ケスクフコト。○援之ヲ○援助

すすむ

勸む

人ニ斯クセヨ斯クスベシト
モヨホシウナガスコト。○勸善○勸告○勸學○

勸進

進む

前ノ方へ出ツ
ルコトナリ。○進退○後進○先進

薦む

人ニ物ヲ進上スルコト、又
ハ人ヲス、メアグルコト。○推薦○薦舉○貢薦

すくふ すゝむ

羞む オモニ食物ヲス、ムルコトニ用フ。 ○羞之ムチ

すつ(すたる)

捨つ トリアゲヌコト、カマハヌコト、溝壑ナドニナゲスツル意ニハアラス。 ○取捨

棄つ 用ニタ、ヌモノトシテステキリウチヤル意。 ○放棄 ○廢棄 ○棄權 ○自

暴自棄

撤つ トリノク ○撤去 ○撤回

廢つ ステモノニシテオクコト。 ○廢物

すでに

既に、已に

此ノ二字ニ就テ、既ハ將ノ反對ニシテ、事ノ全ク終リハテタル上ニアラザレバ用ヒズ。已ハ未ノ反對ニシテ、其事ノ終ルカ終ラザルカノ間ニ言ヒ出ス辭ナレバ、既ノ字ニ比スレバ、其義輕シ。例ヘバ「トクニ何々」トイフト「イマダ何々」トイフトノ差別アルガ如シ、百里ノ路程ニテ言ヘバ、百里皆行キ盡シタルハ既ナリ、一二里行キカ、リタルハ已ナリト心得ベシ。○不待相見、相信已熟、既相見不要

約已相親 韓文

すなはち

則ち 上ヲウケ下ニツマクル辭ニテ、「トキハ」「トキニハ」 ○弟

子入 ツラハ 則孝、出 テハ 則弟 論語

すでに すなはち

即ち 即今ノ義ニテ、其場ヲハナレヌコトナリ、俗語ニテ「ツヒ」

「スグニ」ナド云ヘルニ當リ、皆ソノ處ニツキテスキマノナ
○徐行 セズ 即免死、疾行 セズ 則及 チ 禍 ニ

乃ち、遁ち 此ノ二字ハ同字ナリ、コレハ上ラ一フシ言ヒ終リ、

サテ其次ヲ言ヒ出ストキニ、上ノ文ト下ノ文トノ
繼目ニ置ク字ナレバ、隨テ其義輕
シ「ソコデト」譯シテ見ルベシ。

輒ち 「ソノタビゴトニ」又ハ

便ち 「都合ニテ」
ノ意ナリ。

すべて

都て 「ノコラズ」一體 ○都無所愛惜 スレ 子列

渾て 都ノ字ト同 ○渾合 ○渾融

總て 絲ヲツカヌル義ヨリ轉ジタル ○總裁 ○總無 スレ 實法

凡て ○凡 スレ 一百五十世 オヨソ

すみやか

速やか ヒマドラ ○遲速 ○神速 ○早速 ○速度

急 ○危急 ○緩急

すむ

住む トヒマリス ○住居 マフコト。

すべて すみやか すむ

棲む カリニスマ ○鳥棲木

せノ部

せまし

狹し 寛、濶、廣、博ノ反 ○狹隘

隘し モノ、間ノセマキコト、又 ○伯夷隘子

褊し 衣服ノ身ハバノセマキコトヲ云フ、サ ○褊小

せまる

逼る マチカクツメ ヨスルコト ○逼眞

薄る 逼ト同義 ナリ ○薄暮 ○日薄西

迫る 急ナル意アリ、セ ハシキ意アリ ○逼迫 ○急迫 ○卒迫 ○切迫 ○

飢寒迫

せむ

攻む 城ヲセメウツコト、ソレヨリ 轉ジテ心性ノ上ニモ用フ ○攻城 ○自攻其惡

責む セメトガム ルコト ○刻責 ○言責 ○責任

譴む シコトバノ上ニテキビシク シカリトガムルコト ○譴責

讓む 事ノ子細ヲ問ヒタシテ答ムルコト ○責讓 ○公使讓之

せむ そこなふ

七〇

數む 罪過ノ次ハヲカソヘタ
テ、トガムルコト。○使吏ム數之メ

そ、の部

そこなふ

害ふ 元來利ノ反對ニテ、總ジテ人ノ邪魔ニナリ禍ニナルコト、
ソレヨリ轉ジテモノゴトヲソコナヒヤブルコトニ用フ。

○利害○害成チ

傷ふ キズヲツク
ルコト。○負傷○寒傷○傷暑

損ふ ○損害○損耗○損失

賊ふ ○賊人フ之子チ

そしる

誹る 人ノ非ヲサシテ
ソシルコト。○誹謗

謗る 人ノ身上ニ就テ惡シ
ク評判スルコト。○讒謗○嘲謗

譏る 人ノシカタノアシキヲ見
出シテソシリ笑フコト。○譏刺○誹譏

毀る 針ホドノコトヲ棒ホドニ云
ヒテ人ヲソコナフコト。○毀譽

短る 人ノ智慧ノタケヲハ
カリテソシルコト。○短ル屈原チ於頃襄王ニ史記

そ、ぐ

注ぐ 水ヲツギコ
ムコト。○流注○貫注

そしる そ、ぐ

七一

濺ぐ 水ヲカク
ルコト。○濺沫

洒ぐ 水ヲウツ
コト。○洒掃

沃ぐ 柄杓ニテクミ
カクルコト。○如湯沃雪

灌ぐ 水ヲナガシ
コムコト。○百川灌河

漑ぐ 溝ヲツケテ田地池澤
ナドニ水ヲ引クコト。○灌漑

そなふ

備ふ 物ノ數々ヲノコサ
ズ支度スルコト。○具備○完備○武備○備邊

供ふ ソナハモノニ
スルコト。○供養○供物○供給

具ふ 缺ケノナク支度ノ
トハノフコト。○禮樂具

饌す 膳ダテヲス
ルコト。○有酒食先生饌
語論

そばだつ

敲つ カタアガリニ
ナルコト。○白日敲○帶雨敲

峙つ 山ノ屹立ス
ルコト。○對峙

側つ 正面ヨリ見ズ、ワキヨ
リ見タル貌ナリ。○反側○寢不側

そふ

添ふ 少シヅ、マシ
加フルコト。○添削○添書

そふ そむく それ

七四

副ふ、貳ふ 此ノ二字ハ何レモサシソフル ○副貳 ○儲副

○儲貳 ○名實不副

傍ふ ヨリソフ ○沙上、鳧雛傍 母眠 杜詩

そむく

背く フリソツル ○背、師保之訓

叛く ウラガヘル ○叛亂 ○叛逆

乖く 物ニサカラヒ ○乖離 ○乖、先王之訓

それ

夫れ 文章ノ發語ニ用フ又指スト ○夫、天地萬物之逆

旅 桃李園序 ○夫、我乃行之 孟子

其れ 指ストコロア ○君子謂、文公、其能刑矣、三

罪 シテ 而民服 スト左傳

厥れ 其ノ古字ナリ ○三人並行、厥有、我師 史記

た、ノ部

たがひに

互に モノノイリチ ○交互 ○參互

それ たがひに

七五

たがひに たがふ たくはふ

七六

遞に

モト飛脚ヨリ出デタル字ニテ、物ヲツキオクル義ナリ、カハリテウケトル意アリ。

○遞報 ○遞

送

迭に

フカハリア
フコト。○更迭

たがふ

差ふ

フクヒチガ
フコト。○過差 ○差違 ○參差

違ふ

タガヒテ離レ
去ルコト。○違背 ○違犯 ○心事違

たくはふ

貯ふ

入用ダケヲカコ
ヒオクコト。○貯粟 ○積貯

蓄ふ

トリアツメテヲ
サメオクコト。○蓄積 ○貯蓄 ○廩蓄不_{シカラ}乏

儲ふ

用意ニタクハ
ヘオクコト。○倉儲 ○乏_シ儋石之儲_{ニ書}

たげなは

酣

酒宴ノ最中ノ義ヨリ轉ジテ、
物事ノ盛ナル時ニ用フ。○興酣_{ナリ} ○戰酣_{ナリ}

關

○宴關_{ナリ} ○酒關_{ナリ} ○興關_{ナリ}

たすく

助く

チカラヲツ
フルコト。○助力 ○救助

援く

ヒキアゲタ
スクル意。○援助 ○後援 ○援兵 ○嫂溺_{ルレヌ}則_レ援_レ之

たくはふ たけなは たすく

七七

以^テ手^ヲ子^ニ孟

祐く ○天祐

佐く ○輔佐 ○良佐 ○以^テ佐^グ王^ノ邦國^ヲ周^ニ禮

輔く ○補助 ○輔弼

扶く ○扶助 ○顛^{レドモ}而不^レ扶^ク

資く ○資力

たゞ

唯^ニ獨^リノ義^ヲナレバ「バ」^バ ○唯^ニ天^ヲ爲^ス大^{ナリト}論^語 ○其^レ唯^ニ聖^人乎

經易

惟^ニ「唯」ノ字^ト同^{シク}「タツタ」^ニ

但^ニ俗語^ノ「バカリ」^ト云^ヘル義^ニ用^フ、然^ルニ「タダシ」^ト訓^スル時^ハ「ソレハソウダケレドモ、コレハカウ」^ト引^キ分^ケテ云^フ

詞^ナ ○但^ニ見^ル ○但^ニ欲^ス 一心^ニ直^{チニ}遂^グ 柳^文

只^ニ何^ノ意^モナキ助^語ニ ○只^ニ今^ニ ○只^ニ想^フ ○只^ニ獨^リ眠^ル

徒^ニ「タゞ」「タゞニ」「ムナシク」「イタツ」^{ラニ}「ナド訓^スレドモ其^レ義^ハ同^ジ」 ○徒^ニ善^ム ○徒^ニ法^ス ○徒^ニ

爲

啻^ニ「一字^ニテ用^{フル}コト稀^{ナリ}、常^ニ「不^レ啻」^{ナド}打消^{又ハ}疑問^ノ語^ヲ添^フ」

たゞ

たしかふ

戦ふ

兩方ヨリウチタ
タカフコト

○挑戦 ○合戦 ○連戦 ○力戦 ○

搏戦

闘ふ

勝ヲ争フ
コト

○牛闘 ○争闘 ○格闘 ○兩虎闘 ○血氣

方剛戒

之在闘語

たしく

叩く

音ノスルヤウニ
タ、クコト

○叩門 ○叩首

敲く

ウチタ、クコトニシテ、
叩ノ字ヨリハツヨシ

○敲門 ○敲石 ○敲人

○敲鐘

たゞす

正す

真直ニ引キナ
ホスコト

○改正 ○心正 筆正

訂す

○訂正 ○校訂

糺す

モノヲ吟味
スルコト

○糺問 ○繩愆 糺謬

匡す

救ヒ正ス
コト

○匡正 ○一匡天下 ○匡救其惡

規す

法ヲ以テ人ヲ
正スコト

○規諫 ○規箴

質す

○質問 ○質疑

たぢまぢ

忽ち

チラノトスル意ナリ、形ノ上ニテ云フ詞ニテ、捕捉スベカラズ端緒ナキ義ナリ。○忽焉○時

風雨忽至ル王祥傳

倏ち ○倏忽

乍ち

忽ノ字ヨリハ輕シ、「ツ、ハ、」ナガラト云ヘルニアタル。○燈將滅セント而乍明ナラカナリ

淮南子

たつ

立つ

此ノ字ハ用方ヒロシ、仆ノ字ニ對スル詞ニシテ、タチテアルコト。○鼎立○中立○孤

立 ○獨立

起つ

坐ヨリ身ヲ起シテ立ツコト。○起立○起居○起臥

建つ

オシタツルコト。○建國チ○建屋チ

たづぬ

尋ぬ

ヒキツヰイテ其ノスヂヨリタヅネモトムルコト。○尋求○尋問○尋繹

原ぬ

物ノ根源ヲオシタヅヌルコト。○原始チ要終チ周チ易チ

討ぬ

サグリタヅヌル義ニシテ、尋ノ字ヨリハ重シ。○尋討ス禍源チ

踪ぬ

アトヲシタヒタヅヌルコト。○踪跡

負む

ウシロダヨリニ
スル意ナリ。○負^{ミテ}貴^{キテ}而好^ム權^チ史^ニ記

たふ

堪ふ

コラヘテナシトグルコト。○不堪^ヘ愁^ニ○其^レ何^チ以^テ堪^ヘ之^ニ

耐ふ

モチコタフ
ルコト。○耐忍○不耐煩^ニ

任ふ

カノツヅク
コト。○堪任○病^{ミテ}不任^ヘ行^{クニ}

勝ふ

モノニウチカ
ツ意ナリ。○不勝^ヘ其^レ任^ニ

たふとし(たふとぶ)

尊し

卑ノ反對
ナリ。○尊敬○至尊○尊^テ德性^ヲ

貴し

賤ノ反對ニシテ、
位ノ高キコト。○貴賤○貴^テ金玉^ヲ

尚ぶ

大切ニスル
品ナリトスルコト。上
○高尚○尊^ビ師^ヲ尚^テ道^ヲ

崇ぶ

アガメウヤ
マフコト。○崇拜○崇敬

たふる(たふす)

倒る

ノケザマニタ
フル、コト。○絶倒○轉倒

斃る

ウチタフル、コ
ト、死スルコト。○斃^{レテ}而後^ニ已^ム

仆る

横ニナル
コト。○僵仆○詐^リ仆^{レテ}臥^ス地^ニ

たまく

たまふ

八八

偶ト 思ヒヨラズフト。○偶然○偶レ有リ金千斤

會ト 「ヲリシモ」ヲリカラレノ。○會レ雨阻ラレテ不赴カ

適ト ユキアフ。○適レ會ニ山林ノ多キニ人周本紀

たまふ

賜フ、錫フ 此ノ二字ハ同義ナリ、○恩賜○錫フ命ヲ

給フ アテガフコト、○供給○支給○月給○俸給○位

に即き給ふ

ちノ部

ちかふ

誓フ 言葉ヲ以テ約ト。○作ス誓ヲ○誓言○誓フ軍旅ニ

盟フ 神ニチカフコト。○會盟○背クハ盟ニ不祥ナリ

矢フ ○永シ矢ヒテ弗レ護レ

つノ部

つかさどる

掌ル 其持分ヲトリア。○掌務○鞅掌○掌ル之ヲ

司ル 支配スル。○司令官○典ニ司ノ五衆ヲ

ちかふ つかさどる

八九

つかさどる つかふ つかる

九〇

典ルる モノゴトノキリモ ○典ル職ナ

つかふ

使フふ 指シ圖スル ○指シ使フ ○使フ役

事フふ カシヅクコト、又目上ノ人 ○事フ君ニ ○事フ父ニ母ニ

仕フふ 主人ニ奉公 ○給シ仕ス ○奉シ仕ス

つかる

疲ルる 身體ノ草臥ル、コトニモ、精神氣力 ○疲ル勞ス

羸ルる ヤセオトロ ○羸ル弱ス ○羸ル細ス ○清シ羸ス

つく

突クく フトツキア ○突ク擊ツ ○突ク出ス

衝クく 正面ニツキア ○衝ク突ク ○宅ニ在リ大ニ路ニ之ニ衝ク

撞クく ウチアツルコト、故ニ鐘ヲ ○如シ撞ク鐘ヲ

搗ツつ 白ニテツ ○搗ツ砧ヲ

つく

就クく ソコヘユクコト、 ○去リ就ス ○就ス此ニ可シ知ル ○就ス

之ニ如ク日ノ望メ之ヲ如シ雲ノ史記

つく

九一

附く ツキシタガ ○附屬 ○附隨

即く ○即位

つぐ

繼ぐ 絶エタルヲツギ、アトヲツグコト。 ○繼母 ○繼室 ○後繼 ○繼子 ○

繼承

續ぐ 斷ノ反對ニテ、ツマクコト。 ○繼續 ○續 絃

嗣ぐ 家ヲツグコト。 ○嗣子

次ぐ サシツマクコト。 ○次之 ニ ○次第

接ぐ ツギアフコト。 ○接續 ○接 花 ○隣接 ○接近 ○接 紙

つくす

盡す アルダケキハムルコト。 ○盡心 ○盡瘁 ○盡力

竭す 盡ト同義ナリ。 ○竭 ニ 其力 チ

殫す ノコラズトリタツルコト。 ○殫精

悉す 一々ノコサヌコト。 ○知悉

殲す ノコラズ殺スコト。 ○殲滅

つくる

つぐ つくす

つくる つくしむ

作る コシラヘハジ ○造作 ○作文 ○作爲

造る コシラヘタ ツルコト ○創造 ○製造

製る ○製藥

つゝしむ

慎む モノヲ粗略ニセヌコト ○慎思 ○謹慎 ○慎獨

謹む ○恭謹

欽む 畏敬スルコト、又天皇ノ御上ヲ云フトキニ用フ ○欽明 ○欽 ミテシタガフ 若 ニ 旻天 ニ 經 ○

欽定

つとむ

勤む 骨折リ精出スコト ○勤惰 ○勤苦 ○勤學

務む 精力ヲ一途ニ用フル義ニテ、終日ノワザトスル意ナリ ○政務 ○義務 ○職務 ○

家務 ○務 メテ 利 チ 而 レ 避 フ 害 チ

勉む カノ及バザル所ヲシヒテツトムルコト ○勉勵 ○勉強 ○誠者不 シテ 勉 メ

而中 シテ 不 レ 思 ハ 而得 中 庸

努む 一イキニカラ入レ勵ムコト ○努力

力む ○力政 ○力行 ○力 メテ 民 チ 代 フ 食 ニ 經 ニ 詩

つとむ

詳カ 略ノ反對ニシテ、
クハシキコト。○詳細○詳略

審カ トクト念ヲ入レタ
シカニスルコト。○豫審○審査○審定

つらなる(つらぬ)

連ル ツツク
コト。○連互○連珠○流連

聯ル ○聯邦○聯合○聯隊

列ル ナラブ
コト。○排列○行列○列聖○陳列○羅列

と
ノ
部

とがむ

尤ム ブネンヲトガム
ルコトニ用フ。○不尤メ人チ ○言寡シ尤メ 語論

咎ム 約束ニ違フカ、道理ニタガフカ、法
度ニタガフカヲトガムルコト。○既往ハ不咎メ 語論

とき

時トキ 時日ニワリツケテ用フ、又
廣ク時節ヲ指スコトアリ。○十二時○學ビテ 而時ニ習フ之チ

語論

秋アキ 元來春夏秋冬ノ秋ニシテ、四時ノ一ナリ、秋ハ物ノ成熟
スル時ナルヲ以テ、肝要ノ時節トイフコトニ轉用ス。○危

急存亡之秋也出師表

辰チン ○佳辰○良辰○吉辰

期 ○時期 ○期限

ところ

所

實語ニ用フルトキト、虚語ニ用フルトキトノ二様
アリ、實語ニ用フルトキハ其場所又ハ方角ナリ。○獻_ズ于

公_ノ所_ニ○萬物得_ニ其_ノ所_ニ○所行_ニ○所爲_ニ○所作

處

「キドコロ」アリド
コロノ義ナリ。○到處○住處○東林送_ル客_ヲ處

とづ(とぎす)

閉づ

開、啓、闢ノ反對ニ
テ、シメキルコト。○閉門

闔づ

戸ヲタツ
ルコト。○闔_ト戸_ヲ○開闔

緘づ

口ヲトデフサ
グコトナリ。○參_ニ緘_ニ其_ノ口_ヲ

封す

フウヲツク
ルコト。○封入○封緘

とゝのふ

調ふ

程ヨクス
ルコト。○調和○調諧○調停○風雨調_フ

整ふ

クヒチガヒノナキヤウニスルコト、
隨テ物事ヲ立派ニスルコトニ用フ。○嚴整○齊整○

修整 ○整飭

齊ふ

物事ヲヒトツラニソコフルコト、
又物事ノヒトツラニソコフルコト。○家齊○齊一

とゞむ(とゞまる)

止む 動カサヌ ○動止 ○禁止

留む ヒキトム ○去留 ○滯留 ○遲留 ○逗留

停む ソノ場ニシバラ ○停車 ○停水 ○停雲 ○停止

とふ

問ふ 物事ヲタツ ○問答 ○質問 ○問題

訪ふ コナタヨリ往キテ問フコトニ用 ○訪問 ○來訪

訊ふ トヒタバ ○芳訊 ○訊問

とほる(とほす)

通る 塞ノ反對ニシテユキヌ ○貫通 ○開通 ○四通 ○窮

通

徹る 大低通ト同義ニシテ、底 ○貫徹 ○徹底

透る ツキヌクルコト、 ○透明 ○光透 窓 ○汗透 衣 ○

墨透紙

洞る ユキヌク ○洞門 ○洞貫

ともじ

與に 「カレモコレモオナジク」ノ義ニテ「イ ○世與 少 有

共に共同ニスル ○可ニ與ニ共ニ學ニ ○與ニ衆ニ共ニ之ニ ○

共ニ食ニ不レ飽カ共ニ飯ニ不レ澤マ手ニ ○

俱ニに「イツシヨニ」ヒトツニト云フコ ○玉石俱ニ焚ニ經ニ書ニ ○

・兩虎俱ニ鬪ニ其ニ勢ニ不レ俱ニ生ニ ○

偕ニに「夙夜必ニ偕ニ ○偕ニ行ニ社ニ

とる

取る エラビトルコト、又ハトリモチフルコトニ用フ、皆我ガ物ニスルコトナリ。 ○取捨

採る エラビトルコト。 ○採拾 ○採擇 ○採用

攬る 取リアツメヒキマツメテ、手ニ持ツコト。 ○總攬

操る 持チテハナサヌ意ヨリ、義ヲ立ツルニテモ、志ヲ立ツルニテモ、一ツシカト立ツル所アルヲ云フ。 ○操

刀 ○操ル矛ヲ ○操ル持ヲ ○志ヲ操ル

執る 手ニ持チテハナサヌコト。 ○執筆 ○執ル戟ヲ

なノ部

ながし

長し 形ノ長短ニモ、時ノ長短ニモ用フ。 ○才長 ○長幼 ○消長

永し 主トシテ時ノナガキコトニ用フ。 ○永久 ○永日 ○江流永

なかれ

勿れ 禁止ノ辭ナリ。 ○非禮勿視 レレ、非禮勿聽 レレ クコト論語 ○慎 ミテ

勿 レ 與戰 ニ フコト史記

母れ 矢張り禁止ノ辭ニシテ、勿ヨリハ重シ。 ○飯黍母以 フルコト 箸 チ 禮記

莫れ ○慎 ミテ 莫使 ムルコト 人聞也 カ 鍾會傳 ○莫多飲 ムコト 酒 チ

華佗傳

なく

鳴く 鳥獸ノナクコト、又「ナル」トモ訓ズ、物ノ聲ヲ出スコト、或ハ名聲ノ世ニキコユル義。 ○和鳴 ○悲

鳴 ○鳴世 ニ

啼く 聲ヲタテ、ナクコト。 ○豕人立 シテ 而啼 ク 左傳

泣く 涙ヲ流シテ、ナクコト。 ○啼泣 ○泣血

哭く 涙ヲ流シ聲ヲアゲテナクコト。 ○歌于斯 ニ 哭于斯 ニ 禮記

唧く 蟲ノナクニ用フ。 ○唧々 トシテ 聲 アリ

なげりつ

抛つ ナゲヤルコト、ナゲスツルコト。 ○抛棄

擲つ ナゲツクルコト。 ○放擲 ○打擲

なく なげらつ

なげく

慨クヤシガルコト。○憤慨 ○慷慨

嘆タメイキヲツクコト。○嘆息 ○嘆聲

嗟此字ハ贊美ニモ憂愁悲哀ニモ用フ、嘆ノ字ト略ボ同義ナリ。○嗟嘆

なす(なる)

爲作造ノ義ナリ。○有爲 ○無爲 ○主人請フ入ツテ爲サント席ヲ禮記

成事ヲ成就スルコト。○習成ル性ト ○成績

就シトグルコト、出來アガルコト。 ○成就

なほ

猶「マダ」「ヤハハリ」ノ意ナリ。○其民力竭キダリ矣、安猶取ラン哉國戰

策

尙「其上ニ」「マダ」ノ意ナリ。○愚民猶尙ホ犯ス禁ヲ傳ス奴

なやむ

惱苦ムコト。○懊惱

艱モノゴトノサハリむガチナルコト。○艱難 ○艱苦

ならふ

ならふ なる

一一〇

習ふ

幾遍トナク重ネテナラヒ熟スル
コト、フダンニ手ナル、コト。

○學習○習染○積

習○俗習○習^{ヘリ}軍旅^ニ

肄ふ

藝術ヲ復習
スルコト。○肄^フ業^チ

倣ふ

マネヲス
ルコト。○模倣

なる(ならず)

馴る

鳥獸ノ人ニナレ
ナヅクコト。○馴養○稚馴

狎る

ナレナジ
ムコト。○狎^{ルレドモ}而敬^ス之^チ○德盛^{ナレバ}不^ニ狎^レ侮^ラ

褻る

元來膚ニツケタル衣服ノコト、ソレヨリ轉ジ
テ至極クツロギテ心ヤスクスルコトニ用フ。○褻衣○

見^{レバ}之^チ雖^モ褻^{レタリト}必^ズ變^ズ論^語

慣る

シナル、コトニテ
習ト同義ナリ。○慣聞^ク○慣看^ル○習慣

にノ部

はぐ

北ぐ

敵ニウシロヲ
見スルコト。○敗北

脱ぐ

ヌケイヅ
ルコト。○脱兎○脱走

亡ぐ

ノガレサ
ルコト。○亡人○逃亡○遁亡

逃ぐ、遁ぐ

避ケ隠ル
ルコト。○遁逃○逃去○隱遁

なる
にぐ

一一一

にくむ になふ

にくむ

悪む

好ノ反對ニシテ、キツクイヤガルコト。○如^ク悪^ム 悪臭^ノ如^シ好^ム 好色^ノ大^ニ學

憎む

愛ノ反對ニシテ、ツラニク、思フコト。○憎^ム悪^ム ○讒^ム人之亂^ル 國^ニ誠^ニ

可^ク

嫉^ム而可^シ憎^ム子^ノ歐

になふ

荷ふ

天秤ニテカツグコ、ロナリ、負又ハ擔ニ通用ス。○荷^フ簞^ヲ ○荷^フ笠^ヲ

擔ふ

肩ニカツクコト。○負擔

にはかに

一一三

卒かに

忽遽ノ貌ナリ、俗ニ「フト」トイフコト。○卒然 ○忽卒 ○卒^{カニ}適^{ハス}

敵人

亂^レ而失^フ行^ヲ子^ノ吳

暴かに

思ヒガケナキコト。○何^{トナレバ}者^ニ恐^ル其^ノ暴^{カニ}起^テ而^シ害^ヲ己^ニ子^ノ吳

遽かに

アハタマシキコトニテ、窘急ノ意アリ。○駭遽 ○急遽 ○驚遽

俄かに

ホドナクノ意ナリ。○俄然

はる

似る

マソノモノ又ハソノサマニ見ユルコト。○似^{タリ}猫^ニ ○屏^{ケテ}氣^ヲ似^{タリ}不

息者

論語

にはかに なる

一一三

肖る ○不肖 ○肖像

にる

煮る ニエタ、ス
ルコト。 ○烹煮

烹る ニトホスコトニテ
煮ヨリハ重シ。 ○烹魚

ぬノ部

ぬく

抜く ヒキヌクコト、又カサナリタルモ
ノヲコグチヨリヌキダス意ナリ。 ○拔羣 ○選抜 ○確

乎 トシテ 不可拔

抽く ○抽籤 ○左旋_リ右抽_ニ
挺く ○挺出 ○挺身

ぬすむ

盗む 人ノモノヲ
トルコト。 ○竊盜

偷む スキヲネラヒテカ
スメトルコト。 ○偷生 ○偷閑 ○偷安

竊む 人目ニカ、ラヌヤウ
ニ物ヲトルコト。 ○鼠竊

ぬノ部

ぬすむ

ねたむ ねむる

一一六

妬む、嫉む、娟む
此ノ三字古註ニ婦妬レ夫曰レ妬、夫妬レ婦曰レ娟、害レ賢曰レ嫉トアレドモ互ニ通用ス。

○嫉妬 ○娟嫉

妬む 妬ト同義
ナリ。○爵高者人妬之_{子列}

ねむる

眠る 目ヲトヂテネ
ムルコト。○臥眠

睡る キネムリス
ルコト。○睡眠

瞑す 目ヲフサ
クコト。○瞑目

の
部

のこず(のこる)

遺す 遺物遺言ノ遺ノ字ニテ義明ラカナリ、又遺ノ字ニハ
「モレノコル」物ノ失セタル「ワスル」等ノ義アリ。○

遺賢 ○遺逸 ○遺民 ○遺失

貽す 後世子孫ニノ
コス義ナリ。○貽_{シテ}厥孫謀_テ式_ヲ燕翼_ス子_ニ詩

残る ○殘餘 ○殘金

のぞむ

臨む 「ミオロス」
義ナリ。○臨淵 ○臨事 ○臨下 ○臨政

○君臨 ○光臨

のこす のぞむ

一一七

莅む

臨ト略ボ同義ナリ。

○莅事 ○莅朝

望む

高キヲ見ルコト、又ハ遠キヲ見ルコトヲ云フ、ソレヨリ轉ジテ心ニカクアルベキ筈ト思ヒ、又ハ人ニ見上ケラル、コトニモ

用フ。○遠望 ○眺望 ○望見 ○仰望 ○人望

のぶ(のばす)

伸ぶ

屈ノ反對ニシテ「ヒキノブル」ノ義ニ用フ。

○士氣伸 ○志欲伸 ○威

令伸 ○引 而伸 之

延ぶ

○延長 ○蔓延 ○延引

舒ぶ

○舒席 ○眉舒 ○卷舒

展ぶ ○展卷 ○展書 ○開展 ○親展 ○驥足展

のぶ

述ぶ

人ノ言ヲソノマ、ニ云フヲモ、又己レノ意思ヲノベアラハスヲモ云フ。

○祖述 ○著述 ○

編述 ○講述 ○敘述

宣ぶ

遍クアラハシヒロムル意ナリ。

○宣旨 ○宣言 ○王教宣

陳ぶ

モノヲカゾヘタテ、云フコト。

○敷陳 ○陳述 ○陳情表 ○明陳

大義

演ぶ ○演說 ○講演

のぼる(のぼす)

登る モノ、上ニ ○登山 ○登殿 ○登屋 ○登祚

昇る、升る 此ノ二字ハ同義ナリ、ス、ミノボルコト ○日升 ○昇堂

陞る ○陞階 ○陞敍

騰る ○飛騰 ○奔騰 ○沸騰

上る ○上道 ○氣風日上

のむ(のます)

飲む ミヅケノ類ヲ ○飲食 ○飲聲

呑む 何ニテモ丸ノ ○吞舟魚 ○併吞

のる(のす)

乗る 元來ハ車ニノルコトナレドモ、凡テ物ノ上ニノリタルコトニ用フ ○乗車 ○乘馬 ○乘

輿

騎す 馬ニノル ○騎兵

駕す ガ ○駕馭 ○凌駕

はノ部

はかる

計る 物ノ數ヲカヅフルコト、又ハ 物ノツモリヲ立ツルコト。又ハ ○總計 ○計較 ○計策

○計畫 ○會計 ○大計

謀る 思慮スルコト、又ハ 人ト相談スルコト。○謀慮 ○奇謀 ○遠謀 ○廟謀 ○

參謀 ○智謀

量る 「マスメ」ノ義ヨリ轉ジテ、廣ク物 事ノツモリヲ立ツルコトニ用フ。○量度 ○商量 ○不

度 徳不量力 ○度量

測る 水中ヲハカルコトヨリ轉ジテ、物 ノ距離ヲ見ツルコトニ用フ。○測量 ○測度 ○推

測 ○窺測

度る ○料度 ○計度

圖る ○雄圖 ○大圖

はく

吐く 口ヨリソ、キ イダスコト。○吞吐 ○周公一飯三吐史記

嘔く 幾度モハキツ ツクルコト。○嘔吐

噴く 口ヨリフツフトフ キイダスコト。○噴泉 ○噴 則大者如珠

小者如霧莊子

はじめ(はじめ)

はじめ はしる

一二四

始

主ニ事ノ上ニテ云フ。○始終○始末○王道之始也孟子

初

主ニ時ノ上ニテ云フ。○當初○最初○慎厥初孟子

首

一番ガケノ意。○卷首○首尾

創む

新ニナシハジムルコト。○創業○創設○草創

はしる(わしる)

走る

カケイダスコト、戰場ニテニグルニモ用フ。○奔走○飛走○敗走○棄テ

甲曳チキテ兵而走ル孟

奔る

ワキメヲフラズニカケイダスコトニテ、走ヨリハ強シ、戰場ニテニグルコト、又ハ國中ヲクタクコトニモ用フ。

○出奔○奔命○可奔他國

趨る

足バヤニアユムコト。○趨走

はづ(はぢ)

恥づ

オノガ心ニ深クトガムルコトニテ、重ク用フル字ナリ。○恥辱○知恥近乎

勇中庸

辱づ

榮ノ反對ニシテ外聞アシキコト。○榮辱○汗辱○屈辱

愧づ

オノガ心ニトガムルコト。○仰不愧天俯不愧人韓文

慚づ

愧ト同義ナリ。○慚愧

はしる はづ

一二五

はづ はなはだ はやし

赧づ、作づハヂテ赤面 ○三四讀尙不能スルコト通曉スルコト 茫

然トシテ 增ス愧赧チ韓 ○不レ作ヂ

はなはだ

甚だ「ヒドク又ハ」 ○甚ダ敗ル ○甚シキ哉カチ

酷だツヨク ○酷ダ愛ス ○酷ダ憐ム ○酷ダ好ム文チ

はやし

早し晩ノ反對ニテ、オ ○來ルコト 早シ ○早起

夙し未明ノ義ニテ、 ○夙夜 ○夙昔 ○夙縁早ト同義ナリ。

捷しスバヤキ ○敏捷

速し ○遲速

ばらふ

掃ふ箒ニテハ ○洒掃 ○掃除

拂ふ拂子ニテウチハラフヤウニス ○拂フ之チ

攘ふ ○攘夷

はるか

遙かトホクハナレタ ○遙々

はやし はらふ はるか

はるか ひきある

遐ナリか 邇ノ反対 ○登遐

邈カ ○邈々 ○遙邈

遼カ ○遼遠 ○遼邈

ひノ部

ひきある

率ヲある ヒキユク ○統率 ○率キテ師ヲ來ル ○率先

帥ルる 矢張リヒキユクコト、又ハヒキタツルコト ○子帥キルニ 以テセバ正ナ孰レカ敢テ

不正シカラ 語論

ひく

引ク 弓ヲヒク義ヨリ轉 ○引キテ而シテ伸ブ之ヲ ○引キテ錐チ自ラ

刺ス其ノ股ヲ 史記 ○其ノ引ク 喻チ也ナリ深切ナリ 義術

曳ク 物ヲヒキズルコト ○曳グ杖ヲ ○曳ブ兵ヲ而シテ走ル

牽ク 獸類ニツナフツケテ引キ行ク義ナリ ○牽牛

挽ク カヲユメテヒクコト ○挽グ弩ヲ

援ク 引キカケテ、コナタヘ引キヨスルコト ○舉グ賢ヲ 援グ能チ

延ク コナタヘマ ○延グ客ヲ

ひく

ひくし

低し 高ノ反對ニテ用ヒ所廣シ。○高低

卑し 高、尊、崇ノ反對ナリ、主ニ位ノヒクキナドニ用フ。○卑近○卑賤

ひそかに

竊かに 「シノビヤカニ」トイフコトニテ、人目ヲヌスム意ナリ。○竊考○竊負^ニ而逃^ル

私かに 公ノ反對ニテ「内證デ」ノ意ナリ。○私考^ニ○私淑

陰かに 陽ノ反對ニテ、カゲニテスル意アリ。○陰行^{カニ}其私^ニ

潛かに 水ニヒソムトイフ字ナレバ深隱ノ二義ヲ兼ス。○潛龍○潛伏

ひとし

均し モノ、マサリオトリナク等分ナルコト。○均衡○均一○平均○晝夜

均

等し 元來「シナ」ト讀ミテ段ノコトナリ、ソレヨリ轉ジテ同ジト云フ意アリ。○平等

齊し ○齊一

ひとへは

單に 「フタヘ」ニ對シ相重ナラヌコト、故ニ薄キ意アリ。○單衣○單身○單騎

偏に 一偏ナルコトナリ、故ニカタイヂナル意トナリテ、一方ニバカリ向キタルコトヲ云フ。○偏倚○

偏僻○偏頗○偏言

ひま

隙 物ノスキマノコト、又ソレヨリ轉ジテ
人ノ交リノ睦シカラヌコトニ用フ。○若_ニ白駒之過_{ルガ}

隙_ヲ史記○與_ニ沛公有_リ隙_{史記}

閒 イソガシカ
ラヌコト。○閒暇○閒散

覺 物ノワレメノコト、ソレヨリ轉ジテ
人ノ交リノ睦シカラヌコトニ用フ。○人無_ク覺、則_テ妖

不自_ラ作_ラ傳_左

ひろし(ひろむ)

廣し 狹ノ反對ニテ限リ
ナクヒロキコト。○廣大○廣闊

博し ハヤノヒロ
キコト。○博聞○博愛○博學

弘し 廣大ノ義ナリ、功德
事業ノ上ニ用フ。○道能_ク弘_ム人_ヲ

汎し 深入リヲセズニ
ヒロキコト。○汎言○汎_ク愛_{シテ}衆_ヲ而親_ム仁_ニ語_論

寬し ○寬仁大度○寬大

闊し ○潮平_{ニシテ}兩岸闊_シ

ふ
ノ
部

ふくむ

ひろし

ふくむ ふうす ふうせぐ

一三四

含む

本義ハ口ニク、ミテヲルコト
ナレドモ、其用方ヒロシ。○含蓄

銜む

口ニクハフ
ルコト。○銜枚 ○鳥銜花

ふす

臥す

横ニナル
コト。○起臥

伏す

面ヲ地ニツケテフシカハムコ
ト、又見エヌヤウニスルコト。○起伏 ○伏兵

俯す

仰ノ反對ニテ、カウ
ベヲサグルコト。○俯仰

ふせぐ

防ぐ

カネテ用心
スルコト ○國防 ○防禦 ○豫防 ○人主當防

未萌之欲

大學
一衍義

禦ぐ

サシアタリテ
フセグコト。○兄弟鬩牆 外禦其侮

拒ぐ

ヨセツケ
ヌコト。○拒絕

ふむ

蹈む

二字共ニフムコト、又
足拍子ヲフムコト。○舞蹈 ○蹴踏 ○踐踏

履む

フミテア
ルコト。○履霜 ○履行 ○履歷

踐む

○實踐躬行

ふるふ

ふせぐ ふうむ

一三五

揮ふ 物ヲ手ニモチテフルコト。○揮筆。○揮戈。○揮毫。

振ふ ○振衣。○振威。○振作。○振動。○振怖。

奮ふ ○奮起。○奮然。○奮發。

へノ部

へだつ(へだしる)

隔つ 間ニ物ヲ入ルコト。○間隔。○隔山。○隔壁。○

隔離。○隔窓。○防隔内外。○隔絶。

阻つ 山川道路ノへダタル義ヨリ轉ジテ、セキトムル意ニ用フ。○阻諫。○阻賢者。

路

へつらふ

諂ふ 人ノ氣ニ入ラントテ心ニモナキコトヲ云フコト。○諂諛。○貧而無諂。

諛ふ 諂ト同義。○面諛。

佞ふ 人ノ氣ヲ知リテ、ウマクイヒマハスコト。○佞者。

ほノ部

ほこる

誇る 言語ノ上ニテ自慢スルコト。○誇稱。

へつらふ ほこる

ほこる ほしいまゝに

一三八

矜る 高ブル ○矜伐

ほしいまゝに

恣に 氣マ、ナ ○放恣 ○縱恣 ○驕恣

擅に 一人ニテ事ヲ執 ○擅 ニス 國 チ ○擅 ニス 名 チ ○擅 ニス 譽 チ

放に ヤリバナシノコトナリ、シマリナク推シ放ツ ○放心 ○放逸 ○放言 ○豪放 ○曠放

放逸 ○放言 ○豪放 ○曠放

縱に ○放縱 ○豪縱 ○縱逸

肆に ○放肆

ほとんど

殆ど 「イマスコシニテ」トイフ意ニテ、事ノセマリク ○今天

降 シテ 疾 チ 殆 ド 不興 キ 不悟 ラ書

幾ど 「スデノコトニ」ト云フホドノ辭ナリ。 ○役徒幾 左 盡 レ ○我幾 ド 不脱 セ

於虎口 チ

ほとり

邊 物ノマハリフチヲ云フ、ソレヨリ ○邊鄙 ○水邊 ○邊疆

畔 元來田界ノ義ヨリ轉ジ ○青々 タル 河畔 ホトリ 草

ほとんど ほとり

一三九

側 カタワ ○君側 ○邊側

瀕 水邊 ○水瀕

ほ

略 大概ヲイフ辭ニテ「ア
ラ／＼」ノ義ナリ。 ○略相 反覆

粗 「アラ／＼」ノ義ニテ、細カ
ニ推シ尋テザル意アリ。 ○粗陳 其略

ほむ

褒む 貶ノ反對ナリ、言葉ニテホムルコト、又人
中ニテホメテ名ノ聞ユル様ニスルコト。 ○褒貶 ○褒

賞 ○寵褒

譽む 毀ノ反對ナリ、ヨキ事ヲイヒ
アラハシテホメタツルコト。 ○毀譽 ○名譽 ○聲譽

賞む 罰ノ反對ニテ、物ヲ褒美ニヤリ
又人ヲ引キタツル意ヲ兼ヌ。 ○賞翫 ○鑒賞 ○賞贊

ほろぶ (ほろぼす)

亡ぶ 有ルモノ、ナ
クナルコト。 ○亡身 ○存亡 ○死亡 ○亡失

滅ぶ 火ノ消ユルコト、ソレ
ヨリ轉ジテ廣ク用フ。 ○滅亡 ○滅却 ○廢滅 ○泯滅

ま の 部

まうす (まをす)

申す 事ノワケガラノヨクワカル
ヤウニノベツグル義ナリ。 ○上申

ほむ ほろぶ まうす

白す アカラサマニノ ○啓白 ○敬白

啓す 口ヲ開キテ申シ述ブル意ヨリ、言上スル ○拜啓 ○凡

義トナルナリ、又皇族ニ申シ上グルコト。 用 ヒ 人 ヲ 行 フ 政 ヲ 皆先 ニ 密 ニ 啓 ス 書 ヲ

奏す 臣下ヨリ天子ニ ○奏事 ○上奏 ○奏聞

稟す ○稟申

まこと(まことば)

眞 偽ノ反對ニシテ少シ ○眞實 ○眞誠 ○天真 ○眞理

誠 心ノマコトナリ。 ○至誠 ○誠實

信 ○信義

實 虚ノ反對ナリ。 ○信實

まさば

正に ワキヘユガマズ丁 ○輔依車、車亦依輔、虞虢

之勢正 是也 韓非子

當に 「アタリマヘニカウナクテハナラヌハズヂヤ」トノ義

將に 既ノ反對ナリ、 ○天將 以 夫子 爲 木

鐸 ト 語 ト 論 ト

方に○方生方死ニキニス

ますますく

益クソアルガウヘニ○滋益○家益イ貧シ

増クルコト○感深クシテ益懼喜極ツテ増悲シム柳文

滋クコト○天休滋ク至ル○弟子之惑滋ク甚シ孟子

また

又「ソノウヘマタ」ソノ○又問フ

亦「モマタ」○舉グルモ大事テ亦死セン史記

復「フタ、ビマタ」ノ義ニシテ、○日復タ一日

また

待つコナタニクル○待人チ○待遇○接待○君子ハ藏シ

器チ於身ニ待チ時チ而動ク易經

俟チつモノガ自然ニソコヘ○俟ツ後之君子チ大學一序

また

全し、完し此ノ二字ハ義少シ異ナリ、全ハノコルトコロナキナリ、完ハカクルトコロナキナリ、全ハ多クノ上

ニテ云フ、完ハ一ツノモノ、上ニテ云フ、故ニ大全トハ云ヘドモ大完トハ云ハズ、完固トハ云ヘドモ全固トハ云ハズ。○

また また また

全體○瓦全○完了○完美○完璧

まつる

祭る

マツルコトニ廣ク用フル字ナリ。○祭祀○祭ニハ思フ敬テ論語

祀る

定マリタルマツリナリ。○國之大事、在リ祀ト與ニ戎ニ左ニ傳ス

まもる

守る

ミハルコト。○守備○不失ハ守リ

護る

大切ニスルコト。○保護○擁護○守護

衛る

トリマクコト。○守衛○衛戍

まれ

稀

マバラナルコト、少キコト。○月明カニ星稀ナリ

罕

「タマニ」ノ義ナリ。○子罕ニ言フ利チ論語

みノ部

みだりに

妄りに

「カリソメニ」「カロガロシク」ノ意ナリ。○妄作○妄語

猥りに

妄ノ字ノ義ニ近シ、「ムザト」「メツタニ」ナドト譯シテ見ルベシ。○猥リニ自ラ枉ラ屈ス

○煩猥○猥雜

濫りに

「ワケナクニ」「存ジヨラズ」「マギル、」
又ハ「ムヤミニ」等ノ義ト心得ベシ。○濫入○濫

賞○濫用○濫刑○不得濫採

みち

道

人ノ往來スル所ナリ、ソレヨリ轉ジテ、人ノ
行フベキスデミチノ義ニ用フルコトアリ。○道路○大道

○道德○道理

路

街道筋ナリ、ソレヨリ轉ジテ、人ノ世ヲタリヲ世路トイヒ、人
ノユクスエヲ末路ト云フ、路ハ道ニ比シテ、小サキミチヲ云

フ。○路傍○遍路○行路

途

コ、ヨリカシコマデ
ノミチスデヲ云フ。○長途○半途

みつ

満つ

缺ノ反對ニシテ、一
バイニナルコト。○持満○満足○滿招損謙

受益

盈つ

縮又ハ虧ノ反對ニシテ、滿ト同義ナ
リ、但シオヒクニミチユク意ナリ。○盈縮○盈滿○

天道盈虚消息

充つ

スエトハシトマデ
實ノ入りワタル意ナリ。○充滿○充實○充員備

數

實つ ○充實 ○軍實 ○倉廩實 ○避實攻虚

みつ

みづから

自ら 「ジシンニ」ノ意ニテ、人ノサシツラ
マタズ、我が手ニテスルコトニイフ。〇自作〇自省

躬ら〇實踐躬行〇躬案行 士卒、視其飲食居處

蓋實 饒傳

親ら〇親被堅執 銳子孟

みな

皆、咸 此ノ二字ハ、ホゞ同義ナリ、一ノコラ
ズ「コトゴトク」一「同ニ」ノ義ナリ。〇皆無〇悉皆

〇天下咸服 〇皆使諸吏 帶劍 相傳

みる

見る 自ニカ、ルコト、 〇見聞 〇人之視 已如見

其肺肝 然 學大

視る ミント思ヒテ、心ヲ 〇視察 〇視聽 〇視力 〇熟視 〇

視事

看る 視ノ字ニ近シ、久シクミツムル意アリ。〇看病 〇看護

観る 心ヲトメテクハシクミル 〇觀物 〇觀覽 〇參觀

覽る ヒトトホリ目 〇一覽 〇天覽 〇博覽 〇遊覽

むノ部

むかふ

向ふ 背ノ反對ニテ目アテノカタヘ ○南向^ニ而立^{ヒテ}ツ

迎ふ 送ノ反對ニテ、物ニサキダチテ動クコト、サキヨリ ○送來ルニサキダチテ、コナタヨリ出デムカフルコト ○送

迎 ○歡迎

邀ふ コナタヨリ待チマウケ ○邀^フ駕^ヲ ○舉^ゲ杯^ヲ邀^フ明月^ヲテ出デムカフルコト

むくゆ

報ゆ 恩怨共ニカヘシ ○以^テ直^チ報^イ怨^ニ、以^テ德^ヲ報^ユ德^ニ 語

むすぶ

酬ゆ 元來主人ヨリ客ヘ返杯スルコトヨリ轉ジテ報ト同義ニ用フ ○報酬 ○獻酬 ○貴酬

結ぶ 物ノハシトハシトヲツナギアハスルコト、 ○結婚

締ぶ カタクム ○締約締結 ○合從^{シテ}締^テ交^ヲ

むなし

空し 有ノ反對ナリ、無モ有ノ反對ナレドモ無ハナキナリ、空ハ中ニ全ク物ナキナリ、故ニ「カラ」ノ義ナリ ○

空手 ○空拳 ○引^{キテ}軍^ヲ空^シ還^ル

虚し 實ノ反對ナリ、中ノスキテ ○虚實 ○虚偽 ○虚詐 ○

むくゆ むすぶ むなし

空虚

曠^シ○曠^{シクヌ}日^チ○曠野

めノ部

めぐる(めぐらす)

巡^{行視ナリ}○巡守○巡回○逡巡○巡察

繞^{モノ、マハリ}○纏繞○圍繞

旋^{ヲマハルコト}○旋風○周旋

周^ル○一周

環^ル○環視○環堵

もノ部

もつとも

最^{衆ノ中ニテ其ノ第一ナルヲ云フ}も ○最初○最上○最後

尤^{目立ツ意アリ、故ニ「コトニ」トモ「ハナハダ」トモ}も ○尤^{訓ズ、最ノ字ハ物ニカ、リ、尤ノ字ハ事ニカ、ル。}

甚^シ○尤^モ精力過^ニ絶^ス人^ニ匡^ニ衡^ニ傳^ニ

もと

本^{末ノ反} ○本末○本根○本意○君子^ハ務^ム本^ヲ論^語

めぐる もつとも もと

元 首始ノ義ニテ、物事ノハジマリナリ。○元日○元旦○元年

原 源ニサカノボリテ其始ヲ尋ヌル意ナリ。○根原○本原○原料○原稿

素 「シタヂ」「ダドイ」ナドイフ意ナリ。○平素○陳嬰素 信謹ナリ史記

固 勿論トイフ意ニ用フ。○固 聞之ヨリ○君子固 窮ヨリ、小人窮スレズ

斯濫矣ニ論語

もとむ

求む サグリモトムル意ニモ、コヒモトムル意ニモ、タヅネモトムル意ニモ用フ。○請求○購求

○同氣相求

索む タヅネモトムルコト。○探索○搜索

需む ナクテナラヌモノヲマチモトムルコト。○需要○軍需

要む ○要求

もとる

戻る 和ノ反對ニシテネデマガルコト。○乖戻○反戻○詭戻○復戻

悖る ツヨクウラハラニナリサカフコト。○悖戻○悖逆

復る ○復諫モトル○剛復不遜

狠る ○狠戻

もとむ もとる